

令和3年度第2回袖ヶ浦市立図書館協議会

- 1 協議方法 新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の適用期間中であることから、書面会議にて開催した。
- 2 書類発送日 令和4年2月10日（木）
- 3 協議期間 令和4年2月22日（火）まで

4 出席委員

委員長	吉村 真理子	副委員長	北原 政志
委 員	山田 真衣	委 員	井芹 和美
委 員	小林 君代	委 員	大野 俊江
委 員	津村 千鶴子	委 員	高橋 和子
委 員	星野 裕司	委 員	光武 賢一郎

- 5 傍聴定員と傍聴人数 書面会議のため該当なし

6 議 題

- （1）令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について（第1回）
- （2）令和4年度図書館経営方針及び重点施策について
- （3）その他

7 報告事項

- （1）令和3年度夏・秋のトショロ月間の実施結果について
- （2）令和3年度本・雑誌リユース・デーの実施結果について
- （3）総合教育センターの長浦おかのうえ図書館への移転について

8 議 事

議題（1）令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価について（第1回）

サービス内容（1）資料及び情報の収集、提供等

①図書館資料の収集

吉村委員長：コロナ禍による利用者の来館頻度の減少、滞在時間の短縮等への対策としても以前から行われている「えほんのふくぶくろ」「すぐに借りて帰り

たい人のためのおすすめ絵本セット」といったサービスが時宜を得ており、さらなる充実を希望します。SDGsの目標に対応したテーマ選定及び「ムーミンと北欧」等の魅力的な事業を今後とも企画していただきたいと思います。

北原副委員長：職員が選んで本を紹介するコーナーで、SDGsの目標に対応したものを取り上げたことは、これからの社会に重要な課題となるSDGsへの理解を深め、啓発するために大変意義深いものだと思います。

星野委員：所蔵数・行政資料収集数等、適切に実施されており、資料予算の執行や適切な除籍が計画的に行われていることが伺われます。今年度の重点施策であるSDGs関連では、直接的な資料だけでなく、他事業とコラボすることで、利用者にSDGsの幅広い視点を与えられたと思います。今後も視野を広げるために役立つ図書館を目指してご努力をお願いしたいです。

事務局：SDGsに関する本は一般書も児童書も貸出が多く、市民の関心の高さが伺えます。積極的な収集に努めるとともに、特設コーナーや読書普及事業の中で関連づけて紹介してまいります。新たな本を紹介する取組も、時宜を得た内容と様々な方法をこれからも工夫していきたいと思います。

星野委員：図書館の本を間接的にではあるが、学校で借りることができるのは、県内では数少ないサービスの一つです。特に中学校では読書活動に力を入れているはずですが、しかし、学校生活の実情を考えると、開館時間に図書館を訪れ、資料を借りることは難しく、ジュニア層の図書館利用率の低下につながっていると思っています。学校で、図書館の資料を予約し、受け取れるシステムが一般化できればジュニア層の利用の向上が見込めるのではないのでしょうか。

事務局：現在の図書流通システムでは、対個人への貸出は行っておりませんが、学校司書を通じて、授業で使用する資料以外の絵本や物語なども、生徒の要望により長浦おかのうえ図書館の収蔵庫にある本は適宜貸出を行っております。図書流通システムでの貸出は貸出期間が2ヶ月間のため、個別の生徒の要望に答えて開架の本も提供することは難しいと考えております。長浦おかのうえ図書館の収蔵庫には、青少年向けの資料も所蔵しておりますので、各学校の学校司書を介して図書流通システムでの提供を行ってまいります。

井芹委員：児童書は「本が好きな子・読める子」向けの本が多い印象。本が苦手な子どもが手に取りやすい本も収集してほしい。学研プラス「10歳までに読みたい世界名作」シリーズなど学校では大人気のシリーズが図書館にはなかったり蔵書数が少なかったり、実際学校図書館で人気の本と図書館の本に乖離を感じる場合があります。

事務局：図書館では、児童書については袖ヶ浦市立図書館資料選定基準の中で詳細な評価基準を定めています。未来の子どもたちのために、長く読み継がれる本を収集していくことは公共図書館として必要な責務ですが、本が苦手な子どもでも手に取りやすい本についても、読書のきっかけづくりとして必要であると認識しておりますので、厳選したうえで購入しています。子どもたちにとってより身近な存在である学校図書館とは、ある程度の役割分担をしながら蔵書

を充実させていきたいと考えています。

井芹委員：絵本に関しては「むかしばなし」「紙芝居」のジャンルを増やしてほしい。図書館の児童書を学校図書館の図書購入の参考にしているので、できるだけ偏りなく様々な作者・ジャンルの作品を収集してほしい。

事務局：昔話絵本や紙芝居は、袖ヶ浦市立図書館資料選定基準に沿って全館で購入しています。今後も資料選定基準に沿って、偏りのない資料選定に努めてまいります。

②貸出サービス

星野委員：勤労世代へのアプローチはなかなか難しいと思う。時間のなさ、図書館資料と自身の求めるものとのずれ、W e bやS N Sの利便性、興味・関心の多様性、経済力...等々。この傾向は今後も続くと思われる。開館時間、図書館の機能強化、資料の多様化、図書館を含めた人を引きつける場作り...等々。まずは、ホームページコンテンツの充実とS N Sも含めた電子情報ツールでの広報が大切なのではないのでしょうか。

事務局：現在でも図書館のホームページ、ツイッター、メールマガジンだけでなく、袖ヶ浦市の公式L I N Eも活用し、電子情報ツールによる情報発信を積極的に行っています。今後も引き続き、図書館のホームページコンテンツの充実とS N Sの活用に努めてまいります。

井芹委員：秋のトショロ月間の「秋の読書マラソン大会」はおもしろい企画だと思う。学校でも自分は何冊借りたのか、ランキングを気にする子が多い。児童向けのサービスで継続すると面白いと思う。

事務局：「読書マラソン大会」は、秋のトショロ月間のイベントとして今年度初めて実施しました。システム上、利用者個人の順位等を図書館では把握できないため参加実績等は報告できませんが、来年度も実施する予定です。また、これとは別に、w e b O P A Cのマイページには「読書マラソン」という機能があり、期間や目標冊数を自分で自由に設定して利用することができます。子どもたちの読書を推進する取組として、学校でも活用していただければありがたいです。

高橋委員：“来館”して本を借りる人と、W e bで受付して借りる人の割合は以前と比べて変わったのでしょうか。コロナ禍、現代の情報化社会という影響を受けて変化はありますか。

事務局：予約・リクエスト件数は、約2ヶ月間の臨時休館が2回あった令和2年度を除いて年々増加しており、平成29年度以降は年間に5万件以上を処理しています。特に情報化社会の進展に伴い、W e bでの受付による予約の増は著しく、予約・リクエスト件数全体にW e b予約が占める割合は、平成24年度に50%を超えた後、平成30年度は62%、令和元年度は63.6%、令和

2年度には予約・リクエスト全体の74.6%となりました。一方で来館での予約・リクエスト受付の割合は徐々に減っており、平成29年度に30%を下回り、令和2年度は臨時休館の影響で18.7%と大幅に減少しました。また、令和2年度に1日当たりの平均利用者数が減少した一方で、一人当たりの平均貸出冊数は増加しました。コロナ禍にあって、あらかじめ事前に図書館のホームページで予約したうえで来館し、借りてすぐに帰るという利用動態の変化が伺えます。

高橋委員：調べ学習等について、学校とタイアップしおすすめ図書を夏休み前に配布（裏に保護者に対するおすすめ図書）してみたらいかがかと考えます。

事務局：現在も夏休みと冬休みの前に、図書館で作成したおすすめ図書のポスターを各クラスに送付しています。学校とは所蔵する本が同じではないため、学校とのタイアップは難しい面もありますが、調べ学習や読書感想文向けの本についてもパスファインダーやリストにして図書館で配布しておりますので引き続き行ってまいります。

津村委員：図書室の専任職員在室日利用に関しては、職員在室日の利用を促すとともに、専任職員不在日の図書室の利用に関して改善を図ってほしい。不在日に図書室に行ったら鍵がかかっていたことがありました。

大野委員：公民館図書室の利用について、専任職員が配置されていない日のサービス対応については、同一のサービスができるようにしていくことが大事なのではないかと思います。

事務局：根形公民館は玄関が2箇所あり、施設の構造上、図書室への出入りを公民館の受付カウンターで確認できないことから、資料の無断持ち出しを防ぐため、やむを得ず図書室の専任職員が不在の日については図書室に施錠し、利用したい方は根形公民館に声を掛けていただくよう掲示しています。平岡公民館は、図書室への出入りを公民館の受付カウンターで確認できますので、不在日でも施錠することなく、自由に図書室へ出入りしていただいています。

公民館図書室の専任職員が不在の日にも同等のサービスを提供することは、現状の図書館、公民館の職員体制では困難であるため、在室日を図書館のホームページに掲載し、公民館の入口やカウンター等でも配布するなど、専任職員在室日に利用を導くよう周知に努めています。今後も公民館と意思の疎通を図りながら、専任職員不在の対応について改善できる点がないか考えてまいります。

③レファレンス・情報提供サービス

星野委員：レファレンスの認知のためには、ネット媒体をいかに利用するかが鍵になると思います。今の図書館のホームページコンテンツでは、Webレファレンスまでたどりつきにくいのは、パスファインダーの資料が図書館資料予約までリンクしていないことが挙げられると思います。できることからかまわないので、利用者、利用者層の思考・行動と図書館資料を結びつける方策を考

えて頂きたいです。前記の理由よりパスファインダーを市役所ロビーに置くことは、あまり意味のないことではないかと私的には思います。

事務局：パスファインダーは、課題解決や調べ学習に役立つ主題の調べ方を案内するために作成しているもので、図書で所蔵している資料だけでなく、専門機関の名称やURL等も紹介しています。図書館をふだん利用しない市民の目にも広くふれるようにしたいという狙いから、市役所ロビーだけでなく、例えば育児に関するパスファインダーを子育て支援課に送付するなど、主題に関係する課の窓口等に設置してもらうよう働きかけていきたいと考えています。ネット媒体の活用については、メールマガジンやSNS等を通じて図書館のホームページコンテンツへ誘導するよう今後も努めてまいります。

星野委員：電子図書館 or 電子図書館サービスの定義の具体的な内容がよく分からず、どこまで電子図書館化を目指しているかが分からない。

事務局：本市で現在予定している電子図書館サービスは、図書館で現在所蔵している本を電子化するのではなく、図書館向けに著作権処理をした電子コンテンツをクラウド型のシステムで提供する事業者と使用契約を結び、新しくプラットフォーム（電子図書館用の別のホームページ）を開設し、パスワード、IDを取得した利用者に貸出するものです。図書館で所蔵する資料の電子化は著作権者の許諾を得る必要があり、当面は考えておりません。

電子図書館には、図書館に来館しなくてもインターネット環境さえあればいつでもどこでも利用できるメリットがある一方で、コンテンツが紙の本より少なく高額であることから、まず試行という形で導入し、利用状況を見ながら本格的な導入について検討したいと考えています。具体的には、ネット媒体に慣れ親しんでいて、図書館から足が遠のく10代後半から20代向けのコンテンツを主とした選定を考えています。

星野委員：袖ヶ浦市の図書館利用サービス網は、半径3kmだったと思うが、奈良輪地区の新興住宅地への対応はどのように考えていますか。

事務局：図書館のサービス網は、計画上半径1.5kmとなっておりますが、転入者には市民課窓口で図書館利用案内を配布してもらっているほか、イベントを通じて図書館に来館してもらえよう、夏と秋のトショロ月間等の大型イベント開催時には、自治会の回覧や袖ヶ浦駅北側のマンションへのポスティング等を通じてチラシを配布したり、ゆりまちモール内の店舗にポスター掲示を依頼するなどの取組を行っています。令和2年度はコロナ禍で控えておりましたが、感染状況を見ながら、令和3年度は袖ヶ浦駅や長浦駅の案内板への掲示も含めて徐々に再開させました。

光武委員：参考指標⑨ 年間レファレンス処理件数は年度末には目標の60%前後となりそうだが、コロナ禍による来館者数減少、滞在時間の短縮以外にも要因があるのでは。

事務局：レファレンス処理件数の多くは、窓口で受けて、その場で資料提供や情

報提供まで行うクイックレファレンスです。大幅に減少しているのも、主にクイックレファレンスです。コロナ禍にあって、来館する機会の減少、滞在時間の短縮以外にも、感染対策のため中央図書館児童コーナーのカウンターを閉鎖し、全館のカウンターをビニール幕やアクリル板等で仕切ったことにより、利用者が気軽に話しかけにくい環境になっていること、書架で資料を探している利用者を職員がキャッチしてクイックレファレンスに導くことを控えていることなどの要因があると考えています。

光武委員：サービス評価指標の実績値に小数点表記の項目がありますが、小数点表記の意味は。(本の冊数、予約受付数等)

事務局：市民一人当たりの所蔵図書冊数、年間個人貸出資料点数については、冊数、点数を人口で割って算出する指標であり、小数点以下をすべて四捨五入すると年度ごとの推移が分かりにくくなることから、目標値自体も小数点以下1位まで表記した数値にしています。

1ヶ月当たりのWeb予約受付件数については、件数の合計を月数で割って算出した数値を実績としており、今回はたまたま小数点以下がゼロになっていますが、合計件数そのままではなく割り算で算出した数値であることを示すために、あえて小数点以下1位まで表記しました。

サービス内容（２）利用者に応じたサービス

①乳幼児と保護者に対するサービス

吉村委員長：子育てによる虐待防止の観点からも、絵本を通して子育て中の親子に積極的に関わっていただく機会を多く設定していただけることは、大変有意義であると考えます。子どもとの関わり方に戸惑いを覚える保護者も絵本というツールがあると関わるができるという場合もあり、母子保健担当との緊密な連携を期待します。

事務局：図書館では保護者や子ども向けの様々な読書普及事業を行っていますが、特にブックスタート事業は、絵本を家庭にプレゼントするだけでなく、読み聞かせの「体験」を通じて絵本を介したお子さんとのふれあいのきっかけづくりを行っています。健康推進課すこやか親子班が毎月1回保健センターで行っている「4か月児教室」の会場で行っているブックスタートでは、健康推進課と連絡を取り合い相互に柔軟な対応ができていますので、引き続き緊密な連携に努めます。

井芹委員：LINEなど身近なSNSで新刊やイベント情報などを流してほしい。「絵本セット」は本を選ぶのが苦手な保護者や子どもにいいサービスだと思う。ラッピングをかわいくする、もっと目立つ場所に置くなど工夫などをしてこれからも続けてほしい。コロナ禍で大変だと思うが、中庭イベントのような屋外でのイベントはトシヨロ月間に限らず年を通して継続してほしい。

事務局：前月分の新着資料やイベント情報は、図書館のホームページにその都度掲載し、さらにツイッターやメールマガジン等で積極的に発信しております。また、令和3年7月からは袖ヶ浦市が公式LINEを開始しましたので、イベント情報など必要に応じて市のLINEも活用してまいります。

「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」は感染拡大予防対策として始めたことですが、好評ですので、利用状況等を考慮して継続するか館ごとに判断していきます。他にも「絵本のふくぶくろ」や「本のおみくじ」等、新しい本との出会いを提供する企画を今後も工夫してまいります。

屋外でのイベントにつきましては、気温や天候に左右されるため開催時期の設定が難しい面がありますが、室内では得られない開放感がありますので、気候が比較的安定している時期を狙って、秋のトショロ月間以外にも企画を検討してみたいと考えています。

星野委員：ブックスタートパックの配布等 広報活動の拡大、コロナ禍中にも関わらず、回数多くの出張おはなし会など本と触れあう機会を努力と苦心の下、実施して頂けたことに感謝いたします。来館者数の増加や利用冊数の増加につながることを期待しています。

②児童・青少年に対するサービス

北原副委員長：学校現場では一人一台のタブレットが配布され、ICTを活用した教育が急速に進んでいます。だからこそ、文字、文学を大切にしなければならぬと感じています。

山田委員：例年、図書館で活動させてもらっている袖高図書委員の読み聞かせですが、活動後、全員「楽しかった」と喜んでいます。達成感を味わっています。例年、夏に依頼を受けて参加させてもらっていますが、もし夏が難しかった場合、昨年度・今年度同様、冬に機会をいただけるのはありがたいです。今後ともよろしくお願い致します。また、本POP作成も、図書委員はもちろん、同時期に授業内の作品制作としておこなえるため今後とも宜しくよろしくお願い致します。

大野委員：各館のいろいろな取組がされていることがサービス向上につながっている。特に平川での「お題の本DE BINGO!」や「本のおみくじ」など、子どもたちのゲーム感覚での参加ができて良い取組だと思います。

星野委員：子ども参加型の企画に今後への益々の期待が持てます。特に「イチオシ本のPOPを書こう!」は、子どもたちの積極的な読書活動につながるものと思います。本屋さんでもPOPひとつで売れ行きが変わると聞きますが、「魅力あるPOPの書き方」のようなリーフレットの作成、コンクール→パンフレット→ジュニアコーナーでの案内などにつながるともっとワクワクする活動につながるのではないのでしょうか？

事務局：いただいたご意見を参考に、「魅力あるPOPの書き方」というリーフレットを作成し、その中で過去の優秀なPOPや、ジュニアコーナー、青少年コーナーを併せて紹介し、「中高生向け企画イチオシ本のPOPを書こう！」をさらに魅力的なイベントにしていきたいと思います。

③成人に対するサービス及び④高齢者に対するサービス

星野委員：今年度の重点施策が資料数、新規購入数に明確に出ていて素晴らしい。また館の特性に応じたコーナーの設置、ホームページの「図書館おすすめ」等で館や資料に直接アプローチできていて良かったと思います。資料購入・収集に関し、協同選書会等をして、偏りや漏れがないように資料収集して頂ければと思います。

事務局：選書については、分類ごとの担当が選定した図書をリストにまとめ、週単位で奉仕班と長浦おかのうえ図書館の職員が、偏りや漏れがないか等「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に沿ってチェックしています。疑義がある資料についてはリストにコメントを入力して発注を保留し、月1回の選書会議で協議して購入の可否を決定しています。

津村委員：高齢者に対するサービスは、ツイッターでも広報したようだが、高齢者はツイッターを見ることが少ないと思うので、スーパーや医療機関に高齢者むけサービスの案内チラシを貼ってもらい周知を図るのはどうか。

事務局：サービスの対象に見合った周知先や周知方法を工夫することは必要であると考えます。ご意見を参考に、例えば大活字本や朗読CDの案内を病院等へ送付するなど、図書館以外の施設への周知について検討してみたいと思います。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

星野委員：障がい者...誰もが利用できる図書館を目指してマルチデイジー図書の導入、サビエ図書館の利用など手段が広がったことは望ましいです。市民への周知を行い、広く利用してもらえよう努力をお願いします。

星野委員：美浜図書館（人口約20万人）では、障がい者登録をしている利用者が50人位、常時利用者が20数名、1ヶ月に1回の集配で、1回20冊の利用限度で行っていました。職員が集配を行っており、配達の際に次の予約を受けてきたり、好きなジャンルを職員が選んで持って行ったりしていたので、常時利用者は、年間100冊以上／人は利用していました。袖ヶ浦がどの程度障がい者サービスを行うか、まだ理解していませんが、58冊はあまりに少ない。どこにネックがあるかよく検討をしてみてください。

事務局：袖ヶ浦市の宅配サービスでは電話やメール、FAX等での依頼に応じて貸出期間4週間、上限15点で職員が集配し、そのときに次回の予約を受け付けたり、関連するジャンルの資料を職員が選んで紹介するなど、千葉市と同様

のサービスを行っております。

平成30年度までは年間350点前後の貸出がありましたが、令和元年度以降、転居や健康状態の悪化、コロナ禍での利用控え等個々の事情により利用が減少し、現在の利用登録者は9名で、そのうち常時利用している方は3名のみとなっています。利用がなくなった方への声掛けを行うとともに、新規の利用登録者を増やすために、ツイッターやLINEでのPR、福祉施設や病院等へのチラシ送付など、これまでと異なる周知先や周知方法を検討してまいります。

光武委員：参考指標⑱ 宅配サービスがこのままでは目標値の20%台の実績になりそうです。コロナ禍及び個々の事情を理由として掲げられています。具体的な個々の事情は把握できませんが、効果的な周知方法で解決できるでしょうか？330点という目標値の設定の妥当性には問題がないでしょうか？

事務局：第4次図書館サービス網計画の宅配サービスの貸出330点という目標値は、令和元年度までの利用実績に基づいて設定しました。令和3年度は宅配サービスの貸出実績が大幅に減少しておりますが、令和元年度以降、転居や健康状態の悪化、コロナ禍での利用控え等個々の事情により徐々に利用は減少しております。従来の利用者が減少した分、周知方法や周知先を工夫して新規の利用登録者を増やすよう努めてまいります。後期計画策定時には、どの程度の数値目標が適切か検証しようと思います。

小林委員：「学習障がい等による読みに苦手さのある子どもへの読書支援・・・実施に必要な要領等作成した」とあるが実際に支援指導に当たるのは学校側？教員？読書指導員？

事務局：読書支援サービスは、第四次袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画に基づき、学習障がい等により活字での読書を苦手とする市内の児童・生徒に対して、読みたいという希望のあった本をデージー図書（国際標準規格のデジタル化された録音図書）の形で提供するものです。

読書支援サービスを希望する児童・生徒について、学校から申請書が提出されたら利用登録を行い、学校を通じて読みたい図書をメール等でリクエストしてもらったら、デージー図書等の形で提供できるか確認したうえで、図書流通システムを使って貸出・返却を行います。児童・生徒への対応をどのように行うかは学校の判断となりますが、図書館としては、求めに応じて読みたい本をデージー図書で提供できる体制を整えてまいります。

⑥多文化サービス

星野委員：館内表示のユニバーサル化は、外国人だけでなく「いつでも・どこでも・だれにも」に近づける有効な手段だと思います。多くの館に広がったことに感謝します。

星野委員：袖ヶ浦市の外国人住人に図書館を認知してもらうため、外国人向け利

用案内はあるのでしょうか？ それは、何カ国語に対応しているのでしょうか？また、利用案内があるとしたら、どのような場で届けられているのでしょうか？ 館内の案内の多言語表示は、どの程度進んでいるのでしょうか？ それは、何カ国に対応するのでしょうか？

事務局：現在の利用案内は英語版のみで、図書館の入口周辺に掲示しています。他の言語、韓国語や中国語の案内表示はありません。また、配布用の外国語の利用案内は、英語版も含めて作成しておりません。これについては今後の課題と考えています。

サービス内容（３）多様な学習機会の提供

①学校との連携

津村委員：学校・幼稚園などと連携しての作品展示などは、図書館に興味を持ってもらったり足を運んでもらうためのとても良い取組だと思う。

星野委員：子どもを能動的に読書活動に参加させた企画の実施や幼・保等にも広げた企画が行われたことに対して職員の努力に感謝したい。幅広く読書活動の推進が今後も進むとよい。

高橋委員：小・中学生の作品展示について、中央図書館では展示を見に訪れた人たちの目に自然と本が入ってくるのですが、長浦おかのうえ図書館では１Ｆのみの展示なので、そこから本への関心がつながらないのが、もったいないと思います。２Ｆ部分にも展示できればと思います。

事務局：美術部の作品展示は例年１階の市民ギャラリーで行ってありますが、夏のトショロ月間で実施した「おしえて！きみのすきな本」、秋のトショロ月間で実施した「イチオシ本のPOPを書こう！」は２階の児童書コーナーに展示しました。あまり場所を取らず、図書との関連づけがしやすい展示については、できるだけ図書館内で行いたいと考えております。

吉村委員長：POPの書き方講座（講師として元三省堂書店のPOP王 内田剛氏等）と併せて「おすすめ本のPOPを書こう！」を開催してはいかが。

事務局：「中高生向け企画イチオシ本のPOPを書こう！」は、令和３年度に初めて実施した企画ですが、多くの参加をいただきました。中高生が読書や図書館に関心を持つ契機となるよう、今後も改善しながら継続する予定です。POPの書き方講座も行く行くは開催できればと思いますが、まずは「魅力あるPOPの書き方」というリーフレットを作成し、その中で過去の優秀なPOPの紹介や、図書館のジュニアコーナー、青少年コーナーを併せて紹介するなど、内容を充実させていきたいと考えています。

北原副委員長：学校図書館への貸出数が減少している原因として考えられること

は、1つとしては学校図書の内容が充実してきたということ。もう一つは、開架図書は物流に乗せられないので、新しい資料が借りられないからだと思う。これについては検討の余地はないでしょうか。

事務局：開架図書の貸出については、令和3年1月から3月の間、新型コロナウイルス感染拡大予防の全館休館に伴う臨時的な措置として、開架資料の予約と図書流通システムによる提供を行いました。その際、新着資料に大量の予約が入る、同じ分野（主題・テーマ）の資料が大量に貸し出されたため関連分野の資料が書架から殆どなくなる、授業の補完資料としての利用ではなく生徒個人のリクエストと思われる予約が散見される等の状況が見られ、一般の利用者への影響が大きいと考えられることから、継続は難しいとの判断に至りました。ただ現在の図書購入予算の中での学校用図書の購入は難しいため、何らかの条件を設けたうえでの開架資料の貸出ができないか、今後検討してまいります。

井芹委員：「令和4年度図書館経営方針及び重点施策」に関連して「SDGs」の本や、各学校からリクエストが多いテーマを図書館で集計して、リクエストが多かったテーマの本で「セット本（発行後5年以内くらい）」をつくってほしい。物流でリクエストしたテーマは学校図書館支援センターで一覧にまとめているので参考になると思う。また学校図書館支援センターのホームページ内「図書掲示板」ではどのような本が実際に他校から貸し出されたか、リアルな本のリクエストのやりとりが見られる。物流数減少の歯止めや資料収集の参考になるのでは。

事務局：学校で要望の多いテーマに沿って団体貸出用にセットをつくることは、同じ本を複本で購入しないと1校にしか提供できないため現在の児童書の購入予算では難しいところです。図書館のwebOPACの「おすすめ図書」のリストにSDGsの関連資料を一般書、児童書に分けて掲載しておりますので、ご活用いただければと思います。また、物流でリクエストしたテーマの一覧や学校図書館支援センターホームページ内の掲示板については、図書館から直接見ることが出来ませんので、学校図書館支援センターを通じて情報提供してもらい、参考にさせていただきます。

星野委員：団体貸出数の低下が課題として挙げられているが、コロナ禍の影響で、学習形態を変えざるをえなかったり（通常、課題解決学習を進める単元を一斉指導型に変えるなど）タブレットを利用した学習に変えていったりしたことに影響が出ているかもしれない。インターネットを利用した学習もよいが、情報の信憑性等、情報リテラシーの育成も加味した内容で学校側に伝えてほしいです。

事務局：情報リテラシーについては指導要領に沿って学校で取り組んでおりますが、調べ学習への対応等を通じて図書館からも伝えていきたいと思います。

星野委員：サービス内容（1）資料及び情報の提供...にも述べたが、中学校の朝読活動等に個人的に図書館の本を貸し出せるようになると、中学校の利用者、

利用数が伸びる余地があるのではないのでしょうか？

事務局：現在の物流システムでは、朝読用の図書も提供しております。対個人への貸出は行っておりませんが、学校司書を通じて、授業で使用する資料以外の絵本や物語なども、生徒の要望により長浦おかのうえ図書館の収蔵庫にある本は適宜貸出を行っております。図書流通システムでの貸出は貸出期間が2ヶ月間のため、個別の生徒の要望に応じて開架の本に予約をかけて提供することは難しいと考えております。長浦おかのうえ図書館の収蔵庫には、青少年向けの資料も所蔵しておりますので、各学校の学校司書を介して図書流通システムでの提供を行ってまいります。

山田委員：高校生でも参加できる、図書ボランティア活動がもしありましたら、興味ある生徒は、参加すると思います。今、具体的な案は思い浮かびませんが、夏のトショロ月間や冬休みの期間など、司書に将来なりたい生徒や図書館が好きな生徒は意欲的に参加すると思います。子どもが好きな生徒や、図書館でお仕事している方々を間近で見る機会になるかと。

事務局：袖ヶ浦高校との連携で行っている絵本の読み聞かせ等の活動は、今後もぜひ継続していきたいと考えています。その他にも、高校生が参加できるボランティア活動があれば今後図書館からもご相談したいと思いますが、生涯学習課には市内在住・在学の高校生・大学生などを対象とするユースボランティアという制度があり、図書館での活動実績もあります。ユースボランティアは保険にも加入し、図書館として連携しやすい制度ですので、図書館での活動を希望する生徒には、まずはユースボランティアとしてのボランティア活動をお願いしたいと考えております。

②関係機関との連携

星野委員：郷土博との連携、映画会の前説にボランティアと連携、市役所事業との連携等、図書館のもつ機能を発揮していて素晴らしい。労は多いが、関係機関に図書館の意義をよく理解して頂き、より多くの情報提供ができるとよい。「タイアップ」「コラボレーション」的な事業が定着してきた気がする。コラボ企画で、リストの配布だけでなく会場で携帯端末で予約するサービスやホームページにタイアップ事業の案内と図書リストの掲載そしてリストを予約画面にリンクさせるなど、参加者を貸出行動に誘導するしくみができると図書館の利便性の認知につながることを考えていきませんか。

事務局：今年度図書館では、市内の学校等と連携して児童生徒の作品展示を積極的に行い、ツイッター等や図書館のホームページのフォトニュースを通じて紹介しました。これらのコラボ企画、タイアップ企画を実施することで、図書館を日常的に利用しない市民が来館するなどの効果を期待しています。また、作品の展示スペースには関連する図書を置いて、貸出につなげるよう努めています。これらの企画へのネット媒体の活用については、企画の対象や内容に応じた効果的な方法を今後も検討していきたいと思っています。

③ボランティア活動等の推進

星野委員：ボランティアは活動を深めると、さらに承認欲求が増す。その受け皿として、上級講座の新設や発表機会の場の提供が必要になることが考えられるが、事業として考えはありますか。

事務局：おはなし会ボランティアについては、不定期ではありますが「スキルアップ講座」という名称でボランティア活動に必要な専門的知識や技術の取得を目的とした講座を実施しています。また、おはなし会ボランティア等の有志によるグループサークル「むかしむかしの会」は秋のトショロ月間において「大人のためのお話し会」を毎年開催し、好評です。映画会ボランティアは上映前の作品解説に取り組んでいただいているほか、令和3年度は平岡公民館からの依頼に応じて、高齢者学級で映画上映の前説を行いました。上級講座や成果発表の機会をつくることは、ボランティアの意欲喚起と事業の充実につながりますので、ボランティアからの意見も伺いながら、今後も検討していきたいと考えております。

小林委員：おはなし会ボランティア養成講座初級編について、受講者の中に過去に同講座を受講し、今年度の講座も受講しながら中途離脱し、結局はボランティア登録には至らない受講者が見受けられました。定員数にもれてしまった希望者一人でも多く受講チャンスを与えるべきであると考えますが、事前の申し込み人数の把握が難しいとは思いますが、対応に御一考願いたいです。

事務局：養成講座に参加したものの中途離脱する方については、自身や家族の体調・環境の変化等、様々なやむを得ない理由があります。過去に受講歴があることを理由に申込みをお断りすることなく、離脱せずに講座を受講できるようにできるだけサポートしていきたいと考えています。令和3年度は、コロナ禍ということで人数制限を厳密に行ったため定員数にもれてしまった方があり申し訳ありませんでしたが、次回募集する際は、会場を広い場所に設定するなど受講希望者に可能な限り全員受講していただけるよう配慮したいと思います。

津村委員：袖ヶ浦の図書館には様々なボランティアがいるので、展示物やポスター作り等にもっとボランティアを活用したらどうでしょうか。

事務局：現在は、工作ボランティアが季節の装飾物を作成したり、資料展示ボランティアが作成した展示物を館内の装飾に二次利用するなどの形でご協力をいただいております。また、児童室の飾りつけを自主的に行ってくださる社会教育推進員もいらっしゃいます。ボランティアの負担が増えないことに注意しながら、今後も各ボランティアにご協力いただきたいと考えています。

その他の意見

星野委員：調べ物をする情報ツールは、主にインターネットからであるが、情報

ツールとしてスマホを開いたとき、又はインターネットを開いた時に、いかに図書館にアクセスできるようにするか、いかに予約画面に結びつけるかが大切なのでは。実際、インターネットによるOPAC検索・予約→宅配サービス、ノンストップサービスの礎、おすすめ本のような本の簡単な内容紹介と書誌画面への導入のシステムはできている。予約しやすいコンテンツの作り方や集客のためのコンセプトづくりへの知恵が発揮されればジュニア層、青年層への利用増も望めるのではないのでしょうか。

事務局：図書館のホームページでは、ジュニア層、青少年向けに発行したおすすめ図書リストを「ティーンズページ」の「ティーンズブックス」において書影付きで掲載し、予約のボタンも表示させています。これまで、ツイッターでの案内はしていませんでしたが、今後はツイッターに該当ページへのリンクを掲載するなど、ジュニア層、青少年がアクセスしやすい案内を行いたいと思います。また、学校との連携を含めて今後もジュニア層、青年層を対象にした企画に取り組み、チラシ等に図書館のホームページのQRコードを掲載するなど、図書館利用の増につながるよう努めます。

議題2 令和4年度図書館経営方針及び重点施策について

重点施策（1）資料及び情報の収集、提供等

吉村委員長：新規事業である電子図書館サービスの試行について、10代後半から20代の図書館利用率の増大だけではなく、コロナ禍において、外出せず非接触で利用可能である点は大きな利点であると考えます。試行ということだが、自動音声による読み上げ機能の有無や、蔵書数についてはどのような考えでいますか。

事務局：電子図書館用の電子書籍については、コンテンツによって価格が異なるため積算上の数字になりますが、令和4年度に225点の導入を計画しています。電子書籍には大きく分けて「リフロー」と「フィックス」という2種類のタイプがあり、「リフロー」は文章を中心としたもので、文字の大きさや本によっては縦書き、横書きが変えられます。「フィックス」は紙の本と同じレイアウト（配置やデザイン）で表示されるもので、文字の大きさや縦書き、横書きは変えられません。導入するコンテンツについては、10代後半から20代向けの文芸作品を主としたいと考えておりますが、出来るだけ「リフロー」を選定することで、読み上げ機能にも対応したいと考えています。

星野委員：電子図書館を開設すると示されているが、具体的なビジョンが見えません。電子化するにもステップがあるので、どのようにステップアップするのか明らかにして頂きたい。（特に4年度にすること）。公の場で「電子図書館の開設」と紋切り型に使うと誤解されることが多い。「...を電子化」「ノンストップサービス化」、「電子図書館化をめざし、...を利便化する」のように少し

具体化、及び曖昧化したほうがよいのではないのでしょうか。

事務局：本市で計画している電子図書館サービスは、図書館で所蔵している本を袖ヶ浦市で電子化するのではなく、新しくプラットフォーム（ホームページ）を開設し、図書館向けに著作権処理をした専用の電子書籍コンテンツの使用契約を結び提供するものです。「電子化」という表記は既存の図書館の蔵書を電子化するように受け止められる可能性があるため、「新たなサービスとして」「電子図書館を開設」としました。提供するコンテンツは2年間若しくは貸出52回の利用制限のあるものと考えています。

電子図書館サービスには、図書館に来館することなくインターネット環境さえあればいつでも利用可能であることの他にも、非接触で感染リスクがないこと、資料の延滞や汚破損がないこと、文字の拡大や音声読み上げの機能があるなどのメリットがありますが、一方では、インターネットを使い慣れない方には利用が難しい、使用料が紙の本の定価の3倍程度と高額である、紙の本の出版から半年から数年以上のタイムラグがあり、電子書籍化を拒否する著者もいるためコンテンツが不十分であるなどの課題があります。そのため、まずは現在図書館の利用が少ない10代後半から20代を主とした選定にある程度絞って試行的に導入し、利用状況を見ながらサービスの方向性、本格的な導入について検討したいと考えています。

星野委員：「図書だけでなくインターネットや...レファレンスサービスを推進します。」とあるが、調査活動に職員が様々な手段・方法を使うのはかまわないが、図書館におけるレファレンスとは何かもう一度表現方法を吟味して頂きたい。調べ物（クイックレファレンス）...「調べ物」「クイックレファレンス」？

事務局：「調べ物（クイックレファレンス）」と併記したことで、分かりづらくなってしまったようです。「調べ物（クイックレファレンス）」という表記については、調べ物（クイックレファレンスを含む）」という意味でしたが、「調べ物や読書相談、情報の提供など、レファレンスカウンターで行っているサービス・・・」と表現を改めます。

星野委員：電子図書館化を目指しているようだが、まず一步として、「スマホを使った資料予約講座」のようなものを図書館の一角でミニ講座としてできませんか。（土・日・祝に4～5人を対象に30分程度で行う講座）

事務局：電子図書館化については図書館資料を電子化するものではなく、既存の電子図書館サービスを導入し実施するものになります。また、ご提案いただいた「スマホを使った資料予約講座」については、過去に「情報検索講座」などの名称で、図書館のホームページや館内OPACを使用した資料検索の方法を説明する講座を数年にわたって開催しましたが、参加者が非常に少なかったため中止しました。その後、システム更新を経るごとに館内OPACもwebOPACも使いやすくなっており、スマホの一般的な使い方については公民館で講座を行っていること、また現在の職員体制では土・日・祝日での講座開設は

困難であることから、当面は開催を考えておりません。

重点施策（２）利用者に応じたサービス

①乳幼児と保護者に対するサービス

意見等なし

②児童・青少年に対するサービス

井芹委員：中央図書館の「YAコーナー」電子書籍サービスの試行と並行して、ユースボランティアや司書課程を履修している大学生などの若年層の視点も入れて「YAコーナー」を拡充できませんか。せっかくいい本が多いのに児童書コーナーの一番奥にあり、目立たなくてもったいないです。

事務局：中央図書館児童書コーナーの一番奥ということで「ジュニアコーナー」についてのご意見かと思います。コーナーを拡充したいところではありますが、スペースに限りがあるため、ジュニアコーナーの本を「中高生向け企画イチオシ本のPOPを書こう！」で提出されたPOPを添えて、ブックトラックで手前を出して紹介するなどの工夫をしたいと考えます。

井芹委員：小学校高学年・中学生たちには「おはなし会」の他にも読書の楽しさが体験できるような機会がほしい。

事務局：小学校高学年・中学生に向けては「おはなし会」の他にも読書の楽しさが体験できる機会ということで、1つには「中高生向け企画イチオシ本のPOPを書こう！」の参加を呼び掛けていきます。このイベントには小学校高学年も参加が可能です。その他にも小学校高学年・中学生向けのイベントを検討していきたいと思います。

井芹委員：学校で参加している「本のPOP作り」も楽しんでいる子もいるが、「授業の課題（委員会の仕事）だから」取り組んでいる子も多い。コロナ禍で授業に余裕がなく、中学生は部活などが忙しい中取り組むので、「本のPOP作り」に参加する意味を明確にしてほしいです。「調べる学習」が図書館の「まじめなイベント」だとしたら、「POP作り」は「コンテスト形式・ホームページで投票可・入賞者には景品あり」など参加したくなる「楽しいイベント」にならないだろうか。また、POPを見た人の感想や自分がつくったPOPの本のその後の貸出数を教えてくれる、などアフターフォローがあると子どもたちの意欲はわくでしょう。

事務局：「中高生向け企画イチオシ本のPOPを書こう！」は、令和3年度に初めて実施し好評であったため、令和4年度も改善しながら実施する予定です。中学、高校のクラス単位での参加も多数ありましたが、参加は強制するものではなく、希望者に参加してもらいました。忙しい中でも参加する意味は、趣向

を凝らして自分の好きな本を紹介するという表現の場の提供と、同世代が好きな本を知る機会をつくり、読書や図書館来館への契機を創出することにあると考えています。POPの本のその後の貸出数や、図書館のホームページ内のティーンズページで感想を紹介するなど、子どもたちの意欲がわくような取組を加えていきたいと思っています。

③成人に対するサービス、④高齢者に対応するサービス及び⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

意見等なし

⑥多文化サービス

光武委員：新着本の書架にカズオ・イシグロ著「The Remains of the Day」のペーパーバック版があったが、話題になった書籍の翻訳版を購入する際には、あまり時をおかずに原書も購入していただきたい。他方で、Yuval Noah Harari著「Sapiens」、「Homo Deus」が翻訳本の購入時期をおおきくずれることなく購入されたのは嬉しいことでした。

事務局：外国語図書については、市の会計で購入できるルートが限られており、買いたいものを買いたいときに購入できるとは限らないのが現状です。令和3年度はキャンペーンの案内があった際に、在庫のあるおすすめ外国語図書のリストの中から選定し、購入しました。今後も、キャンペーンなどの機会があれば積極的に購入したいと考えております。

光武委員：重点施策には子どもたちへの取組が多く掲げられているが、大人向けのサービス（一般書）の充実が必要と考えます。外国語書籍の充実は外国人の利用だけではなく、英語学習者にとっても大変有用であると考えます。

事務局：購入ルート等の事情であらかじめ計画を立てることが難しいことから、会議資料の補足説明では子どもを対象とする読書普及事業のことを取り上げましたが、大人向け外国語図書については継続的な取組として令和4年度も収集してまいります。

小林委員：「外国語絵本を使った読み聞かせなど外国語の図書を活用した催しを行います」とあるが、実際に本を読むのは？

事務局：英語での読み聞かせの経験がある社会教育推進員による、英語の絵本の読み聞かせを考えております。

重点施策（3）多様な学習機会の提供

意見等なし

その他の意見

星野委員：コロナ禍の影響でサービスに影響が出るのは仕方ありません。早い時期に終息に向かい、これからもこのようなことが100年に1回の事であればよいのですが、学者は今後度々起こる危機としています。感染症まん延に伴うサービスの提供の在り方について、サービス内容・活動等について指針を設けておくとういかもしれません。

事務局：直接的には、日本図書館が定める「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が基本方針となります。感染状況に対応して国や県から示される方針を考慮しながら、図書館ができることを考えてまいります。映画会については、袖ヶ浦市で開催する際のガイドラインをつくり、ボランティアと共有して実施しています。

北原副委員長：子どもたちと図書館をどうつなげていくかという視点から見ると「市内の施設見学などで図書館見学に行く」ということが考えられます。見学に行って「図書館ってこんな楽しいところなんだ」「何か違っていい雰囲気」なんて感じられたら利用も増えるかもしれません。経営方針や施策とは、話がずれてしまいましたが、いずれにせよ学校と図書館が連携を取りながら本好きな子どもを育てていければよいと思います。

事務局：コロナ禍でここ数年は対応できておりませんが、小学生のまちたんけんや中学生の職場体験学習などは、図書館にとっても子どもたちに図書館のことを理解してもらう貴重な機会になります。点検・評価の中で取り上げた取組だけでなく、今後も様々な形で学校との連携を深めていきたいと考えております。

大野委員：電子図書館サービスの試行される事、こんなコロナ禍では喜ばしいことです。中高生向け企画や小・中高などとの連携行事も利用増につなげる取組として評価できます。

津村委員：電子図書館開設・デジ書・電子絵本など、今の時代に合った図書館のあり方に挑戦する姿勢を高く評価します。経営方針の「市民に親しまれる図書館活動の充実」に、市民として期待しています。

星野委員：事業やサービス内容を続ければ「人・モノ・カネ」で行き詰まる。「Build & Scrap」が必要と考えるが、特にScrapの部分が見えてこない。外に出す資料では出しづらいものかもしれないが、協議会等でScrapの部分の可視化できるようにして頂きたいです。

事務局：新規事業の立ち上げは利用者にとってサービス向上となるもので、図書館として取り組んでいかなければなりません。ご指摘いただいたように、すでに目的を果たし、次のステップを考えなければならない事業を検証していく作業も今後必要になっていくことと思われます。その際は、図書館協議会にも

説明し、委員からの意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

井芹委員：「図書館に来る人へのサービス」は充実しているが、「図書館を利用しない人」への働きかけが弱く感じます。以前のように駅に返却ポスト設置、ゆりまちモールなど人が集まる場所で利用券作成イベント、市のホームページから直接、図書館のホームページへアクセスできたり、図書館利用に関するアンケートなど載せたりすることはできませんか。「利用しない層」の声の中に図書館を面白くするさらなるヒントがあると思います。これから転入者が増える季節なので、転入手続き時に図書館利用カードを作れたりするなど、行政への働きかけも必要ではないでしょうか。

事務局：駅への返却ポストの設置については、以前は袖ケ浦駅・長浦駅・横田駅にブックポストを設置しておりましたが、ゴミや食べかす等の投棄がしばしばあり、資料の汚破損につながることから撤去した事情があり、今後も駅への返却ポストの設置は困難であると考えております。また、人が集まる場所に出張しての利用券作成等のイベントについては、図書館の外では登録状況の確認方法や職員体制の面などの問題点がありますが、図書館への来館を促す方策として、今後の検討課題としたいと思います。

市のホームページから直接図書館のホームページへのアクセスについては、市のホームページのトップページに図書館のバナーが表示されており、直接アクセスできるようになっております。図書館利用に関するアンケートの掲載については、市のホームページの担当課である秘書広報課との調整が必要になりますが、今後インターネットでのアンケートを実施することになった際には、広く回答を募集するためにも掲載を検討したいと思います。

転入手続き時での図書館資料利用券作成については、転入手続きは市民課及び各行政センターで行うことになることから、システム面、個人情報保護の観点からも不可能ですが、すでに市民課の協力により転入者へ図書館の利用案内を転入手続き時に配布し、図書館利用の促進に取り組んでおります。

井芹委員：休館日についてすべての館が月曜日一斉休館だが「中央図書館」「長浦おかのうえ図書館」の休館日はずらしてほしい。学校としては至急で依頼される本をすぐに用意できて助かります。

事務局：中央図書館と長浦おかのうえ図書館で休館日をずらすことについては、現在導入しているカウンター業務の委託契約への影響もあり、利便性だけでなく、運営に掛かる経費等の検証も必要となりますので、袖ケ浦市の図書館・図書室のネットワーク全体の中で調査、研究をしてまいります。

令和３年度第２回袖ヶ浦市立図書館協議会次第

令和４年２月１４日（月）

午後２時から４時

長浦おかのうえ図書館 ３階 大会議室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議 題
 - （１）令和３年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況の点検・評価について（第１回）
 - （２）令和４年度図書館経営方針及び重点施策について
 - （３）その他
- 5 報告事項
 - （１）令和３年度夏・秋のトショロ月間の実施結果について
 - （２）令和３年度本・雑誌リユース・デーの実施結果について
 - （３）その他
- 6 閉会のことば

議題（１）令和３年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価について

（第１回）

“図書館はサービス水準の向上を図るため、サービスの実施状況について点検及び評価を行う際の評価指標及び目標年度を令和７年度とする数値目標を設定し、その達成状況等について、年度ごとに点検及び評価を行います。”

（「袖ヶ浦市第４次図書館サービス網計画」３－５サービス評価指標）

図書館法は、第７条の３及び第７条の４において、図書館が自らの運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するように努めなければならないことを規定している。

袖ヶ浦市立図書館は、平成２３年度に袖ヶ浦市第３次図書館サービス網計画を策定し、その後、地域住民の代表である図書館協議会の協力を得ながら、図書館サービスの実施状況について、年度ごとに点検・評価を行い公表してきた。

第３次図書館サービス網計画の計画期間が令和２年度で満了したことから、袖ヶ浦市立図書館は、令和３年度を初年度とする袖ヶ浦市第４次図書館サービス網計画を新たに策定した。今回は、第４次図書館サービス網計画の策定後初めての点検・評価となる。

なお、第４次図書館サービス網計画の計画期間は、令和３年度から令和１２年度までの１０年であるが、図書館を取り巻く環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間を前期と後期の各５年に分けており、サービス評価指標及び参考指標と数値目標については、前期の最終年度である令和７年度を目標年次としている。

令和３年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価 今後のスケジュール

時 期	作 業 内 容
１月まで	・令和３年度の取組を、第４次図書館サービス網計画のサービス内容（１）（２）（３）のシートに分けて点検する。
２月～３月	・【令和３年度第２回図書館協議会】図書館協議会委員の意見を伺う。
４月～５月	・シートに記載した点検内容の追加及び修正を行うとともに、確定した令和３年度の実績数値によって、サービス評価指標の達成度について評価する。
６月～７月	・【令和４年度第１回図書館協議会】図書館協議会委員の意見を伺う。（前回の追加及び修正）
８月	・教育部課長会議及び教育委員会で報告する。
９月上旬	・図書館のホームページを通じて公表する。

令和3年度袖ヶ浦市立図書館サービス状況点検・評価の評価方法

袖ヶ浦市第4次図書館サービス網計画において、数値目標を設定した指標は、サービス内容(1)に対応するサービス評価指標(①～⑪)と、サービス内容(2)(3)に対応する参考指標(⑫～⑳)とで構成されている。これらの指標のうち、参考指標については主に活動指標(※1)であることから評価の対象とせず、成果指標(※2)が主である①～⑪のサービス評価指標の達成度に基づいて評価するものとする。

なお、袖ヶ浦市立図書館は、緊急事態宣言(令和3年8月2日～9月30日)及びまん延防止重点措置(令和3年6月21日～7月11日、令和4年1月21日～2月13日)の適用期間も、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら開館を継続し、図書館サービスの遂行に努めたが、感染予防対策を講じることが困難な一部のサービスや事業については停止や制限等の措置を取るなど、図書館運営に対する新型コロナウイルスの影響は未だに大きいことを考慮し、令和3年度の点検・評価については以下の方法で行う。

※1 活動指標：目標を達成するための手段(事業の進め方・やり方)の大きさを表す指標(アウトプット指標)。

※2 成果指標：事務事業を行うことによって対象にどれだけの効果を与えることができたかを表す指標(アウトカム指標)。

1 点検

令和3年度に行った図書館サービスの取組を、第4次図書館サービス網計画のサービス内容(1)(2)(3)のシートに分け、「取組内容」「指標の実績値」「成果・効果」「課題」「今後の対応」を記載する。

※「指標の実績値」については、今回の資料では令和3年12月までの数値を記載している。年度が完了した後に、改めて令和3年度実績値を入力する

2 図書館協議会からの意見

地域住民の代表である図書館協議会委員からの意見をサービス内容ごとに伺い、サービス内容(1)(2)(3)のシートに「図書館協議会からの意見」としてまとめる。

3 評価(令和4年度第1回図書館協議会で行う。)

(1) サービス評価指標①～⑪の目標値に対する達成度を5段階で表示する。

◎：目標値に対して100%以上の達成率

○：目標値に対して80%以上100%未満の達成率

△：目標値に対して 60%以上 80%未満の達成率
 ×：目標値に対して 60%未満の達成率
 ー：目標値を達成するために実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定どおり実施できなかった。

(2) サービス評価指標①～⑪の達成度◎を 30 点、○を 10 点、×を 0 点として採点し、平均値を全体評価として A・B・C・N の 4 段階で表示する。

A：施策の成果が十分に図られている。24 点以上（80%以上）
 B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。24 点未満 18 点以上（60%以上 80%未満）
 C：施策の成果が十分に図られているとは言えず改善を要する。18 点未満（60%未満）
 N：新型コロナウイルス感染症の影響により、指標の達成度に「ー」が半数以上あり、評価不可能である。

袖ヶ浦市第 4 次図書館サービス網計画 サービス評価指標達成度及び全体評価

※R3 実績値、達成度及び全体評価は、年度が完了し実績値が確定した後に入力し、令和 4 年度第 1 回図書館協議会で評価する。

サービス評価指標	R7 目標値	R3 実績値	達成度
①市民 1 人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	冊	
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	冊	
③年間個人貸出利用者数	149,000 人	人	
④年間個人貸出資料点数	550,000 点	点	
⑤市民 1 人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	点	
⑥年間市民新規登録者数	1,400 人	人	
⑦市民登録率	42%	%	
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件	件	
⑨年間レファレンス処理件数	1,200 件	件	
⑩ 1 か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	件	
⑪ 来館者満足度	80%	%	偶数年度実施
全 体 評 価			

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

①図書館資料の収集

- ・「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、新刊図書を中心に購入し、全館の開架資料 315,243 冊に対して 8,966 冊を受入（うち購入 8,093 冊）し、開架書架の約 2.8%を更新した。【2021. 12. 31 現在】
- ・寄贈図書の受入れを積極的に行い、852 冊（一般書 841 冊、児童書 11 冊）を受け入れた。
【2021. 12. 31 現在】

☆市への寄附金により児童書を 231 冊購入し、調べ学習に役立つ図書を中心に児童書を充実させた。

☆行政資料については年度当初に市役所内に広く寄贈を呼び掛け、データのみで公表した資料は図書館で製本して受け入れたほか、令和 3 年度からは電子資料としても保存することとした。

図書館で製本した袖ヶ浦市関係郷土行政資料 24 タイトル、54 冊。【2021. 12. 31 現在】

☆図書館で役目を終えて不用となった除籍資料の再活用を図るため「本・雑誌リユース・デー」を開催した。

市内学校・子育て支援施設・高齢者施設等事前配布（12/2, 3）44 団体 2,060 冊配布
本・雑誌リユース・デー（市民対象）（12/5, 7, 8）365 人 約 6,500 冊配布

②貸出サービス

- ・幅広い年代に対して図書館の豊富な資料を紹介する取組として、特設コーナー等において市民の生活課題の解決に資するテーマを取り上げて積極的に提供した。
- ・9 月 10 日～16 日の自殺予防週間にあわせ、中央図書館、長浦おかのうえ図書館、平川図書館において「自殺予防週間関連ミニコーナー」を設置し、多くの貸出があった。
- ☆特設コーナーとは別に、長浦おかのうえ図書館のカウンター前で 7、8、10 月に、「お菓子の本」「夏を楽しもう」「災害に備える」「シニアライフを楽しむ」というテーマでおすすめ図書の紹介コーナーを設置したほか、千葉県民の日（6 月 15 日）にあわせ、郷土資料を展示し、多くの貸出があった。
- ・図書館ホームページに、図書館員の個性を生かしたテーマで「図書館員のおすすめ」を掲載した。
- ・新成人に送る図書館おすすめの 20 冊の図書リストを改訂して、成人式で新成人に配布した。
- ・こどもの読書週間記念行事、夏のトショロ月間、えほんのふくぶくろなど、貸出増につながる事業や企画を年間を通じて推進した。また、秋のトショロ月間では、期間中の貸出冊数に応じ年代別の順位などが確認できる「秋の読書マラソン大会」を新たに開催し読書意欲の向上を図った。
- ・長浦・平川における児童書の利用促進を図り、対象年齢別に「すぐに借りて帰りたい人のためのおすすめ絵本セット」を作成した。
- ・中央図書館の展示コーナーでは「～袖ヶ浦市市制施行 30 周年記念～袖ヶ浦市のあゆみ」で、こどもの読書週間記念行事スタンプラリーと連携したクイズを行ったほか、展示に関連した貸出用の図書を併せて紹介した。

☆図書館を直接利用しない市民にも図書館の資料を広く提供するため、団体貸出サービスについて、子育て支援施設や高齢者施設等へ利用案内を送付して周知を図った。

③レファレンス・情報提供サービス

- ・市民の課題解決を支援するため、インターネットやデータベース等も活用し、利用者の求めに応じて資料及び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進した。
- ・袖ヶ浦市立図書館の所蔵資料では解決できないレファレンスについて、国立国会図書館、県立図書館へのレファレンス依頼を行い、利用者の課題解決に努めた。
- ・パスファインダー（調べ方案内）は大人向けに「障がい」と「防災」の改訂版の２種類、児童向けには「世界の国々」を作成し、図書館のホームページに掲載したほか、ツイッターでも広報し、図書館・図書室３館２室で配布した。

★月替わりで共通のテーマの本を職員が選んで紹介する特設コーナーで、SDGｓの目標に対応したテーマを積極的に取り上げ、17の目標のうち6つの目標について紹介した。【2021.12.31現在】webOPACでも、SDGｓに関するおすすめ図書を一般書・児童書別に掲載した。

★読書普及事業においても、8月～9月の資料展示「ムーミンと北欧」において、北欧について紹介する中でSDGｓにも触れる内容としたほか、秋のトショロ月間の中庭イベント「カレンダーを使って封筒づくり～SDGｓエコについて考えよう～」において、SDGｓに関する資料を会場内で展示するなど、SDGｓについての啓発を図った。

サービス評価指標	R7 目標値	R3. 12 月実績値
①市民１人当たりの所蔵図書冊数	11.3 冊	11.0 冊
②袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数	300 冊	222 冊
③年間個人貸出利用者数	149,000 人	91,688 人
④年間個人貸出資料点数	550,000 点	389,469 点
⑤市民１人当たりの年間個人貸出資料点数	8.5 点	6.0 点
⑥年間市民新規登録者数	1,400 人	888 人
⑦市民登録率	42%	40.8%
⑧年間リクエスト処理件数	55,000 件	49,243 件
⑨年間レファレンス処理件数	1,200 件	537 件
⑩１か月当たりのウェブ予約受付件数	4,000 件	4081.0 件
⑪来館者満足度	80%	偶数年度実施

成果・効果

- ・特設コーナーだけでなく、webOPACや読書普及事業など様々な機会を通じて、図書館職員の選んだおすすめ図書を紹介するなど、利用増につながる取組を積極的に行ったことにより、個人貸出資料点数はコロナ禍前の令和元年度の実績近くまで回復してきた。
- ・SDGｓに関する図書の積極的な収集と提供に努めるとともに、特設コーナーや読書普及事業で取り上げてSDGｓの周知と活用を図った結果、関連図書の貸出やSDGｓの理解につながった。
- ・コロナ禍でもウェブ上で所蔵資料の予約や未所蔵図書のリクエストを受け付けたことによ

り、リクエスト処理件数、ウェブ予約受付件数が増加した。

課題

- ・コロナ禍で利用者の来館頻度が減ったり滞在時間が短くなる等の影響により、個人貸出利用者数や新規登録者数、レファレンス処理件数は、コロナ禍前の令和元年度の水準まで回復していない。特にレファレンス処理件数は大きく減少しているため、新たなPR方法等を考える必要がある。
- ・児童書の貸出は増えているものの、一般書の貸出が減少しており、図書館の利用機会が少なくなる青年層や勤労世代に対してもアプローチをしていく必要がある。
- ・公民館図書室の専任職員の配置がこれまでの週6日から週3日となり、専任職員が不在の日には公民館図書室の利用が減少しているため、在室日の利用を促進する取組が必要である。
- ・作成したパスファインダーを館内のレファレンスコーナー等に設置しているが、あまり活用されていないので、館外での配布など必要とする人の手に届きやすい配布方法を考える必要がある。

今後の対応

- ・コロナ禍で図書館へ来館する機会が減っている保育所や幼稚園等に対して、新規登録の働きかけを行う。
- ・図書館を利用する機会が少ない10代後半から20代を主な対象に、新たなサービスとして来館しなくても利用できる電子図書館サービスを試行する。
- ・ツイッターやホームページ、図書館だより等を通じてレファレンスの事例紹介を行い、レファレンスサービスの周知を図る。
- ・公民館図書室に専任職員が配置されている日を積極的に周知し、在室日の利用への誘導を図るとともに、こどもの読書週間記念行事や夏・秋のトショロ月間などで公民館図書室の利用増につながる取組を行う。
- ・作成したパスファインダーを図書館内だけでなく市役所ロビーや関係機関へ配布し、活用につなげる。

図書館協議会の意見

サービス内容（２）利用者に応じたサービス ※下線部は実績値が未確定

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

①乳幼児と保護者に対するサービス

☆家庭における読書活動を推進するため、市の４か月児教室だけでなく、新たに中央図書館においてもブックスタートを開始した。４か月児教室が中止となった期間は、ブックスタートパックの受け渡しを、図書館だけでなく、保健センターで開催されるすこやか相談等でも行った。ブックスタートパックの配布率 57.7%。【2021. 12. 31 現在】

- ・健康推進課で新生児訪問時に配布しているブックスタートのチラシを改訂し、新生児訪問のほかに、窓口で１歳未満の対象の子どもがいる転入者にチラシ配布を依頼した。

☆感染予防対策を講じることが困難な、０歳からの乳幼児を対象とする「わらべうたであそぼう」、「すきすき絵本タイム」と２～３歳児を対象とする「えほんのへや」は、年間を通じて開催することができなかった。代替りの事業として、マスク着用できることを条件に、３歳以上の児童を対象とする「えほんのひろば」を２回開催し、絵本の読み聞かせや手遊び等を行ったほか、０～３歳向けに「今月のおすすめの絵本４冊」を紹介するポスターを作成し、全館に掲示した。

- ・感染予防対策を講じながら、幼稚園や保育所、子育て支援施設等への出張おはなし会を行った。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストを発行したほか、児童室で季節にあわせた様々なテーマでおすすめ図書を展示した。

②児童・青少年に対するサービス

- ・感染予防対策を講じながら、館内おはなし会を定期的に開催したほか、小学校・学童保育等への出張おはなし会を実施した。おはなし会等実施回数合計 226 回【2021. 12. 31 現在】

- ・袖ヶ浦高校図書委員と協働でクリスマスおはなし会を企画・開催した。
- ・年齢別おすすめ図書リストを２回作成し、館内だけでなく学校や保育所等へ配布した。各館の児童室では、テーマを決めた定期的なおすすめ図書の紹介展示を行った。
- ・調べ学習や読書感想文、自由研究についての問い合わせに多数対応したほか、おすすめ図書リストやパスファインダーを作成し、その関連図書を集めたコーナーを設置するなど積極的に支援した。

☆青少年の図書利用を促進するため、中学生向けの「ジュニアコーナー」や高校生向けの「青少年コーナー」の充実を図ったほか、新たに中学生・高校生向けに「イチオシ本のPOPを書こう！」を企画し、284 人の参加があった。

- ・子どもが読書に関心を持つきっかけとなるイベントとして、４月から５月にかけてこどもの読書週間記念行事を開催し、スタンプラリーに 861 人が参加するなど、児童書の貸出増につながった。

☆夏のトショロ月間では「お題の本 DE BINGO！」（平川）や「図書室で「宝さがし」、秋のトショロ月間では「本のおみくじ」（平川）や「どんなごはんがすきかな？投票してみよう！」など新しい本との出会いにつながる様々な企画を工夫し、ふだん子どもの利用が少ない平川、根形、平岡でも実施した。

③成人に対するサービス

- ・月替わりで共通のテーマの本を職員が選んで紹介する特設コーナーにおいて、「新しいことを始めよう」、「共に生きる」、「平和を考える」、「さまざまな仕事 みんなに感謝!」「おうち時間を満喫する」などのテーマを取り上げ、図書館のホームページにもリストを掲載し、ツイッターでも広報した。

☆会議資料の作り方、起業、転職、経営に関する本など、働く上で役立つ資料を積極的に収集し、さらに、図書館のwebOPACの「図書館おすすめ」のリストに「ビジネス書（2021年発行）」を掲載し、図書館で購入した新刊ビジネス書の紹介に努めた。

④高齢者に対するサービス

- ・地域の高齢化が進行する中で、市民の関心が高く、常に新しい情報が求められる社会福祉と医学関連の図書を重点的に収集した。社会福祉の分野の図書を全館で 127 冊収集し、同分野の全開架図書 2,208 冊の約 5.8%を更新したほか、医学・薬学の分野の図書を全館で 470 冊収集し、同分野の全開架図書 10,128 冊の約 4.6%を更新した。【2021. 12. 31 現在】
- ・高齢者が利用しやすい資料として、大活字本 117 冊（54 タイトル）や朗読CD24 点（20 タイトル）を購入した。【2021. 12. 31 現在】

☆図書館webOPACの「図書館おすすめ」に「大活字本リスト＞小説・2021 年から発行」のリストを追加し、資料の紹介に努めた。

☆大活字本と朗読CDの案内を 1 枚にまとめたポスターを作成し、全館に掲示し、ツイッターでも広報した。また、中央・長浦・平川の大活字本コーナーでは朗読CDの案内、CDコーナーには大活字本の案内を掲示し、相乗効果を図った。

- ・秋のトショロ月間の期間には、長浦おかのうえ図書館で「人生 100 年時代のマネープラン」をテーマに「暮らしに役立つ生活講座」を開催し、好評を得た。これに関連して、カウンター前で「シニアライフを楽しむ」というテーマでおすすめ図書の紹介展示を行った。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民を対象に、依頼に応じて図書館資料を届ける宅配サービスを実施した。宅配による貸出 58 冊【2021. 12. 31 現在】
 - ・宅配サービスの周知を図り、民生委員に依頼して昭和地区でチラシの配布を行った。
- ★学習障がい等により読みに苦手さのある子どもへ読書支援を行うため、図書流通システムを介してデイジー図書（※1）を提供できるように、実施に必要な要領等を作成した。

⑥多文化サービス

- ・外国語（英語）の図書 23 冊（一般書 16 冊、児童書 7 冊を購入した。【2021. 12. 31 現在】

☆ユニバーサルデザインに配慮したピクトグラム（絵文字）による館内表示を、中央図書館、平川図書館の一般書コーナーでも行った。（長浦おかのうえ図書館は昨年度に実施済み。）

★日本語を母語としない子どもへの読書支援を行うため、図書流通システムを介して多言語対応の電子絵本（※2）を提供できるように、実施に必要な要領等を作成した。

参 考 指 標	R7 目標値	R3. 12 月実績値
⑫ブックスタートの年間配布率	80%	57.7%
⑬こどもの読書週間記念行事の参加者数	900 人	861 人
⑭おはなし会の年間実施回数	480 回	226 回
⑮子ども向けお薦め本リストの年間発行回数	6 回	7 回
⑯成人向けお薦め本コーナーの年間企画数	12 件	16 件
⑰大活字本の年間貸出冊数	4,000 冊	2,774 冊
⑱宅配による年間貸出資料点数	330 点	58 点
成果・効果		
・コロナ禍で「わらべうたであそぼう」など乳幼児向け事業の多くが年間を通じて実施できなかったが、「今月のおすすめの絵本4冊」の紹介など、乳幼児の読書につながる取組を積極的に行ったほか、ブックスタートを4か月児教室だけでなく図書館でも開始し、1歳未満の乳児とその保護者に絵本の読み聞かせの機会を提供することができた。 ・新たに「中学生・高校生向け企画おすすめ本のPOPを書こう！」を実施したところ、中学校3校、高校1校からの協力を得られ、応募された作品を中央・長浦・平川・根形で掲示することで、中学生・高校生が読書や図書館に関心を持ってもらうきっかけづくりとすることができた。 ・ビジネス関係の新着図書の紹介など、成人向けに幅広い分野の本の紹介を館内展示やウェブ上で行うことができた。 ・高齢者向けの資料である大活字本や朗読CDについて、新しくポスターを作成したり図書館のwebOPACに掲載し、周知することが出来た。		
課題		
・コロナ禍によって中止した乳幼児向けの事業「わらべうたであそぼう（0歳～）」「すきすき絵本タイム」（0歳～）「えほんのへや（2・3歳）」はマスクがつけられないなど感染対策が難しい年齢層のため、2年以上乳幼児の読書への働きかけができない状況が続いており、事業の再開を検討する必要がある。 ・宅配サービスについては、新型コロナウイルスの影響と個々の事情により大幅に利用が減少したため、サービスを必要とする人に対する効果的な周知方法を考える必要がある。 ・読みに苦手さのある子ども、日本語を母語としない子どもを対象とする読書支援サービスの実施要領の作成に検討を要し、サービスの開始が遅れてしまったため、学校への周知を速やかに図っていく必要がある。		
今後の対応		
・新型コロナウイルスの感染状況等を注視しながら、乳幼児向けの事業の再開のタイミングを図る。 ・障がい者サービスについて、さらに関係機関等への効果的な周知を図るとともに、利用登録している個々人の状況に応じたきめ細かい対応を行う。		

- ・読みに苦手さのある子ども、日本語を母語としない子どもを対象とする読書支援サービスについて、学校司書の研修会等の機会を通じて、学校への周知を図る。

図書館協議会の意見

※１ **デージー図書**：デージー(DAISY)はDigital Accessible Information System の略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R 1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することが出来る等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デージー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデージー」などがあり、専用の再生機又は再生用ソフトウェアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。

※２ **多言語対応の電子絵本**：袖ヶ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会 RAINBOW」から寄贈された電子図書(CD-R)で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところが画面上でハイライトされるなどデージー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必要とせずパソコンで視聴できる。

サービス内容（３）多様な学習機会の提供 ※下線部は実績値が未確定

取組内容（「★」新規、「☆」一部新規・拡充、「・」継続）

①学校との連携

- ・学校の読書や調べ学習を支援するため、市内の小中学校からの依頼に応じて図書流通システム等により 1,420 冊の団体貸出を行ったほか、学校貸出用利用券により開架資料 819 冊を貸出した。学校図書館への貸出冊数合計 2,239 冊【2021. 12. 31 現在】

☆市内の小中学校に加え、今年度は初めて幼稚園とも連携し、園児、児童生徒のおすすめ図書や作品を図書館で展示した。中央図書館では、昭和小学校（１年生、２年生、６年生）と奈良輪小学校（３年生、４年生）の作品展示、昭和中学校図書委員のおすすめ図書展示を行い、長浦おかのうえ図書館では蔵波中学校美術部の作品展示を行ったほか、平川図書館で中川幼稚園の園児の作品展示を行った。

- ★中高生に読書に興味を持ってもらうために、市内の中学校・高校と連携して「イチオシ本のPOPを書こう！」を実施し、４校・284名の参加があった。（再掲）
- ・昭和小２年生、蔵波小２年生のまち探検の受け入れを行った。

②関係機関との連携

- ・市民会館・平川公民館合同開催の幼児家庭教育学級において読み聞かせ講座「絵本の読み聞かせについて」を行った際に、図書館から講師を派遣した。

☆平岡公民館で高齢者学級で映画鑑賞を行った際に、初めての取組として、図書館から映画会ボランティアを派遣して前説を行った。

- ・郷土博物館との連携事業として中央図書館で「～郷土博物館連携展示～海と私たち」の資料展示を行ったほか、講演会の会場となった長浦おかのうえ図書館で「東京湾と魚の本」と題して関連図書を紹介展示した。
- ・市役所の関係課からの問い合わせに応じて、業務に必要な資料や情報を調査し、所蔵資料だけでなく県内外の他自治体図書館から借用するなどして提供した。
- ・男女共同参画週間（６月23日～29日）の時期に「図書館おすすめ男女共同参画社会関連図書リスト」を作成し、図書館だけでなく市民協働推進課へ配布した。また、依頼に応じて男女共同参画情報誌「パートナー」で紹介する本の選定と解題を作成した。

☆生涯学習課のユースボランティアに図書館の蔵書点検作業に参加してもらった。

- ・ちば南部地域若者サポートステーションに、職場体験の一環として本・雑誌リユース・デーの準備作業、蔵書点検作業に参加してもらった。

③ボランティア活動等の推進

☆おはなし会ボランティア養成講座初級編（全５回）を開催し、20名の受講者にボランティア登録の呼びかけを行った。

- ・おはなし会やブックスタート、映画会、資料展示、工作など市民ボランティアとの連携により、読書普及事業を推進した。
- ・夏のトショロ月間や秋のトショロ月間等の大規模イベントにおいて、社会教育推進員の企画・立案による催しを実施した。

- ・秋のトショロ月間では図書館サークルによる成果発表の場を設け、俳句・短歌作品の展示や大人のためのお話し会を行った。展示スペース付近に句集及び短歌に関する資料を集め、サークル活動に興味を持ってもらうきっかけづくりと資料の貸出を図った。

④図書館からの情報発信

- ・図書館が広く市民に活用されるために、市及び図書館の広報紙やホームページ、ツイッターやメールマガジン等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行った。

☆広報そでがうらに掲載しているおすすめ図書のページが令和4年1月号からリニューアルされ、図書館職員による解題と表紙画像を付けて、より充実した内容となった。

☆ホームページの「特設コーナー」「おすすめ図書」「新刊図書」など図書館資料に関するコンテンツを更新した際に、ホームページのお知らせに掲載し、ツイッターも活用して周知を図ったほか、読書普及事業の実施状況についてもフォトニュースやツイッターを通じて積極的にPRした。また、図書館登録グループ・サークルの紹介ページを新たに作成したほか、リンク集にも新たなリンク先を追加するなどホームページの内容を充実させた。

参 考 指 標	R7 目標値	R3. 12 月実績値
⑱学校図書館への年間貸出図書冊数	3,500 冊	2,239 冊
⑳学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数	7 回	10 回
㉑公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数	7 件	7 件
㉒図書館ボランティア研修会等の年間実施回数	25 回	21 回

成果・効果

- ・児童生徒の作品展示など学校との連携を積極的に行い、子どもたちが成果を発表し保護者等が見る機会を提供することができた。
- ・公民館や郷土博物館、市長部局と連携した取組を推進し、事業を充実させることができた。
- ・図書館ボランティアや社会教育推進員との協働により、図書館の運営や読書普及事業の内容を充実させることができた。特におはなし会についてはボランティア養成講座初級編を開催し、受講者は令和4年度から絵本の読み聞かせボランティアとして活動できるよう養成することができた。
- ・図書館ホームページ上で様々なコンテンツを更新・新規作成したほか、メールマガジンだけでなくツイッターも積極的に配信するなど、図書館からの情報発信を充実させることができた。

課題

- ・学校図書館への貸出数が減少しているため、減少理由などを学校側に確認する必要がある。

今後の対応

- ・学校図書館への貸出数の減少について学校司書を通じて原因や事情を確認し、利用増につながる対策を講じる。

図書館協議会の意見

議題(1) 参考資料① 図書館サービスの数値目標(サービス評価指標・参考指標)

☆: 第4次図書館サービス網計画で新しく追加した指標

市人口		65,288		65,000	対応する施策	備 考
サービス評価指標		R03.12 実績	R03年度 実績	R07年度 目標値		
(1) 資料及び情報の収集、提供等	① 市民一人当たりの所蔵図書冊数(冊)	11.0		11.3	(1)①図書館資料の収集	所蔵図書冊数÷人口。年5,000冊の増(10,000冊受入・5,000冊除籍)で算出。
	② 袖ヶ浦市関係郷土行政資料の年間受入冊数(冊/年)	222		300	(1)①図書館資料の収集	紙媒体だけでなく、図書館で保存したPDFファイル等の電子資料を含む。
	③ 年間個人貸出利用者数(人)	91,688		149,000	(1)②貸出サービス	個人利用者の延べ貸出利用人数。市外利用者を含む。
	④ 年間個人貸出資料点数(点)	389,469		550,000	(1)②貸出サービス	個人利用者の雑誌・視聴覚資料を含む総貸出資料点数。市外利用者を含む。
	⑤ 市民一人当たりの年間個人貸出資料点数(点)	6.0		8.5	(1)②貸出サービス	年間個人貸出資料点数÷人口。
	⑥ 年間市民新規登録者数(人)	888		1,400	(1)②貸出サービス	市民登録者は市内在住者のみで、在勤・在学者を含まない。
	⑦ 市民登録率(%)	40.8		42	(1)②貸出サービス	市民登録者は市内在住者のみで、在勤・在学者を含まない。 本市では10年間未利用の登録者は除籍している。
	⑧ 年間リクエスト処理件数(件)☆	49,243		55,000	(1)③レファレンス・情報提供サービス	未所蔵資料のリクエスト処理件数、所蔵資料の予約処理件数の合計。
	⑨ 年間レファレンス処理件数(件)	537		1,200	(1)③レファレンス・情報提供サービス	レフェラルサービス、クイックレファレンスを含む件数。
	⑩ 一か月当たりのウェブ予約受付件数(件)	4,081.0		4,000	(1)③レファレンス・情報提供サービス	日常的な来館が困難な市民でも利用できるサービスの指標。
	⑪ 来館者満足度(%)			80	(隔年で実施する利用者アンケート調査で設問)	隔年で実施する利用者アンケートで設問する。

参考指標		R03.12 実績	R03年度 実績	R.07 目標値	対応する施策	備 考
内容						
(2) 利用者に応じたサービス	⑫ ブックスタートの年間配布率(%)	57.7		80	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス	配布数÷対象人数(市内在住の4か月児)
	⑬ こどもの読書週間記念行事の参加者数(人)☆	861		900	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・青少年に対するサービス	子ども読書活動推進計画の指標と統一させる。 (H29:読書手帳配布、H30・R1:スタンブラリー)
	⑭ おはなし会の年間実施回数(回)☆	226		480	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・青少年に対するサービス	対象年齢別に実施する図書館内での各種おはなし会、学校や保育所等への出張おはなし会の実施回数合計
	⑮ 子ども向けお薦め本リストの年間発行回数(回)☆	7		6	(2)①乳幼児と保護者に対するサービス及び②児童・青少年に対するサービス	乳幼児向けから高校生まで年代別におすすめ図書リストを作成し、学校や保育所等へ配布する。
	⑯ 成人向けお薦め本コーナーの年間企画数(件)☆	16		12	(2)③成人に対するサービス	特設コーナーや秋のトショロ月間、その他成人向けに館内で実施したお薦め本コーナーの企画数の合計。
	⑰ 大活字本の年間貸出冊数(冊)	2,774		4,000	(2)④高齢者に対応するサービス	個人貸出の実績を集計する。
	⑱ 宅配による年間貸出点数資料(点)	58		330	(2)⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス	デージー図書の貸出を含む。
学習機会(3)多様な提供	⑲ 学校図書館への年間貸出図書冊数(冊)	2,239		3,500	(3)①学校との連携	学校貸出利用券による開架資料の貸出を含む。
	⑳ 学校との連携による図書館内掲示や催し物の年間事業数(回)☆	10		7	(3)①学校との連携	児童生徒が選んだおすすめ図書の展示、授業や部活動の成果を発表する場として、図書館を活用してもらう。袖ヶ浦高校とのコラボでのおはなし会を行う。
	㉑ 公民館・博物館等関係機関と連携した年間事業数(件)☆	7		7	(3)②関係機関との連携	公民館の講座への講師派遣や資料提供、博物館と連携した資料展示等を実施する。市長部局との連携を含む。
	㉒ 図書館ボランティア研修会等の年間実施回数(回)	21		25	(3)③ボランティア活動等の推進	図書館ボランティア(社会教育推進員を含む)の会議・打ち合わせ、新規募集の説明会、養成講座、スキルアップ講座等の実施回数

議題（１）参考資料② 令和元年度～令和３年度個人貸出等実績推移【４月～１２月】

年度 (開館日数)		R元年度 (225日)	R2年度 (176日)	R3年度 (227日)	R3/R元比較 100.9%	R3/R2比較 129.0%
中 央	一般書	100,676	70,746	95,542	94.9%	135.0%
	児童書	59,425	40,313	73,122	123.0%	181.4%
	雑 誌	8,470	5,871	7,432	87.7%	126.6%
	A V	5,274	2,440	3,373	64.0%	138.2%
	合 計	173,845	119,370	179,469	103.2%	150.3%
	利用者	49,426	28,062	43,170	87.3%	153.8%
長 浦	一般書	110,024	74,735	95,623	86.9%	127.9%
	児童書	50,944	33,878	52,967	104.0%	156.3%
	雑 誌	8,951	6,434	7,735	86.4%	120.2%
	A V	8,359	5,495	5,447	65.2%	99.1%
	合 計	178,278	120,542	161,772	90.7%	134.2%
	利用者	44,352	26,640	36,673	82.7%	137.7%
平 川	一般書	17,637	13,730	18,690	106.0%	136.1%
	児童書	10,234	5,947	12,061	117.9%	202.8%
	雑 誌	1,629	1,363	1,505	92.4%	110.4%
	A V	1,060	649	864	81.5%	133.1%
	合 計	30,560	21,689	33,120	108.4%	152.7%
	利用者	8,264	4,962	7,681	92.9%	154.8%
根 形	一般書	8,236	5,875	5,953	72.3%	101.3%
	児童書	4,083	3,251	2,018	49.4%	62.1%
	雑 誌	1,800	1,536	1,578	87.7%	102.7%
	A V	115	66	57	49.6%	86.4%
	合 計	14,234	10,728	9,606	67.5%	89.5%
	利用者	4,732	3,032	2,716	57.4%	89.6%
平 岡	一般書	4,563	3,115	2,733	59.9%	87.7%
	児童書	2,621	1,655	2,201	84.0%	133.0%
	雑 誌	658	335	211	32.1%	63.0%
	A V	376	274	357	94.9%	130.3%
	合 計	8,218	5,379	5,502	67.0%	102.3%
	利用者	2,871	1,677	1,448	50.4%	86.3%
全 館	一般書	241,136	168,201	218,541	90.6%	129.9%
	児童書	127,307	85,044	142,369	111.8%	167.4%
	雑 誌	21,508	15,539	18,461	85.8%	118.8%
	A V	15,184	8,924	10,098	66.5%	113.2%
	合 計	405,135	277,708	389,469	96.1%	140.2%
	利用者	109,645	64,373	91,688	83.6%	142.4%
1人当り平均貸出点数		3.7	4.3	4.2	115.0%	98.5%
1日当り平均貸出点数		1,800.6	1,577.9	1,715.7	95.3%	108.7%
1日当り平均利用人数		487.3	365.8	403.9	82.9%	110.4%
新規登録者数(市内)		968	464	888	91.7%	191.4%
レファレンス件数		900	366	537	59.7%	146.7%

議題（２）令和４年度袖ヶ浦市立図書館経営方針及び重点施策（案）について

１ 経営方針

図書館は、第三期教育ビジョンにおける施策の方向性の一つである「一人ひとりの学びを支える生涯学習の充実」を推進するため、「市民に親しまれる図書館活動の充実」に取り組みます。

そのため、袖ヶ浦市第４次図書館サービス網計画に基づき、乳幼児から高齢者まで地域の特性に則した、市民の多種多様・高度化する要求に応えられる図書館サービスの充実を図ります。また、市民一人ひとりの学習課題、生活課題、地域課題の解決を支援します。

２ 重点施策

★：新規事業、☆：拡充・一部新規、・：継続、 内は補足説明

（１）資料及び情報の収集、提供等

市民の多種多様な読書要求に応え、高度化する課題の解決を支援するため、社会情勢や地域の実情に留意しつつ、「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、図書館資料の充実を図ります。

資料や情報の提供にあたっては、利便性に配慮し、地域や年代等にかかわらず広く市民が利用できるよう努めます。また、地域の身近な情報拠点として、市民の様々な課題の解決を支援します。

- ・市民に最新の情報を提供するため、開架書架の４％程度を更新できるよう新刊図書等を収集するとともに、郷土行政資料について寄贈を積極的に呼びかけます。
- ・電子データで公表された行政資料を製本し図書館資料として受け入れるほか、さらに電子資料としても収集します。
- ・幅広い年代に対して図書館の豊富な蔵書を幅広く紹介する様々な企画を推進し、利用の拡大に努めます。また、SDGsの１７の目標に対応した資料の収集と提供を推進します。

生活課題やSDGsに対応したテーマによる特設コーナーなどおすすめ図書の展示、読書週間やこどもの読書週間にあわせた読書普及事業の企画、ホームページやWebOPACのおすすめ図書のページを通じて、幅広い年代に対して図書館の豊富な蔵書を紹介する様々な取組を行います。

- ★図書館へ来館しなくてもインターネットを通じていつでも利用できる電子図書館サービスを試行します。

図書館を利用する機会が少ない、１０代後半から２０代を主な対象とした新たなサービスとして、電子図書館を開設します。

- ・個人への貸出だけでなく、学校や地域、企業等における読書活動を支援する団体貸出サービス、行政機関等における情報収集などを支援するレファレンスサー

ビスを推進します。

高齢者福祉施設、子育て支援施設等に団体貸出サービスについての利用案内を送り、団体貸出の新規登録や利用増を図ります。

- ・図書だけでなくインターネットやデータベース等も活用し、利用者の求めに応じて資料及び情報の提供・紹介等を行うレファレンスサービスを推進します。

調べ物や読書相談、情報の提供など、レファレンスカウンターで行っているサービスの具体的な内容を市民、行政機関に積極的に周知します。

- ☆図書館運営に市民の声を反映させるとともに、図書館利用者の満足度を調査するため、利用者へのアンケートを実施します。

(2) 利用者に応じたサービス

市民の様々なニーズに対応するため、利用者の特性に応じたきめ細かいサービスを展開します。

①乳幼児と保護者に対するサービス

- ・家庭における読書活動を推進するため、4か月児教室だけでなく、図書館でもブックスタート事業を実施します。
- ・乳幼児を対象とする絵本の読み聞かせ、手遊びなど子どもの発達段階に応じたおはなし会を実施し、乳幼児が保護者とともに読書に親しむことのできる環境の充実を図ります。
- ☆子どもの本の講座を開催し、子どもの本と読書に対する理解と興味を深めます。

子どもの読書に関心のある市民に向けて、絵本やおはなしの楽しみ方についての講座を開催します。

- ・対象年齢別のおすすめ図書リスト発行や児童室でのおすすめ図書の展示等を通じて、保護者が読書に関心を持ち、親子で読書活動を楽しむための情報提供を積極的に行います。
- ・幼稚園、保育所や子育て支援施設等への出張おはなし会を行い、乳幼児の読書活動の支援を行います。

②児童・青少年に対するサービス

- ・児童・青少年が本に親しみ、読書の楽しさを体験できるように、子どもの発達段階に応じたおはなし会を実施するとともに、小中学校等への出張おはなし会を実施します。
- ☆おはなし会ボランティア中級編を開催し、素話のできるボランティアの増員とおはなし会活動の更なる充実を図ります。
- ・対象年齢別のおすすめ図書リストの発行や児童室、青少年コーナー等でのおすすめ図書の紹介展示を行います。
- ・カウンターで読書相談やレファレンスに応じるほか、学校への団体貸出を通じて児童・生徒の調べ学習や読書活動を支援します。
- ・「こどもの読書週間記念行事」や「夏のトショロ月間」など、子どもが読書に関

心を持つきっかけとなるイベントを開催します。

- ・市内の中学校、高等学校と連携し、中学生や高校生の読書意欲を喚起する取組を積極的に推進します。

令和３年度に初めて実施し好評だった中高生向け企画「イチオシ本のPOPを書こう！」を引き続き実施します。

- ★デイジー図書（※１）を活用し、学習障がい等により読みに苦手さのある子どもに対する読書支援を図ります。

要求に応じてデイジー図書をサピエ図書館からダウンロードし、読みに苦手さのある児童生徒へ図書流通システムを介して提供します。

③成人に対するサービス

- ・２０代から５０代の市民が抱える就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事、また、子育て、教育、若者の自立支援や健康・医療、福祉、法律など様々な課題について、資料の充実と活用を図ります。また、社会の変化や技術の進展に的確に対応し、データベース等の電子資料も活用し、利用者が求める資料や情報の提供を適切に行えるよう努めます。

２０代から５０代にかけての、いわゆる勤労世代が仕事や生活に役立てられるテーマを取り上げ、特設コーナーやホームページ・WebOPACを通じて紹介します。

④高齢者に対応するサービス

- ・介護予防・健康づくりに関する資料、趣味や社会参加などセカンドライフの充実につながる資料のほか、大活字本や朗読CDなど高齢者でも読書に親しみやすい資料の充実と活用を図ります。また、高齢者の関心の高いテーマを取り上げた講座を開催します。

⑤図書館利用に障がいのある人に対するサービス

- ・心身の障がいや長期のケガ、病気等により図書館への来館が困難な市民への宅配、活字による読書が困難な市民へのデイジー図書の提供などの障がい者サービスを実施します。

社会福祉協議会等の関係機関を通じて、宅配サービスやデイジー図書の提供サービス等の周知を図ります。

- ・ホームページからのレファレンスや未所蔵リクエストの申し込みの受付など、日常的な図書館利用が困難な市民に対してインターネットを活用したサービスの周知に努めます。

⑥多文化サービス

- ☆外国の言語や文化に対する関心を高めるため、各国事情に関する図書や外国語図書の紹介に努めるほか、外国語図書を活用した取組を行います。

読書普及事業において、子どもを対象に、外国語絵本を使った読み聞かせなど外国語の図書を活用した催しを行います。

- ★図書館で所蔵する多言語対応の電子絵本（※２）を活用し、日本語を母語とし

ない子どもに対する読書支援を図ります。

依頼に応じて、図書館で所蔵する多言語対応の電子絵本を、図書流通システムを介して日本語を母語としない児童生徒等に提供します。

(3) 多様な学習機会の提供

多様化する課題に的確に対応するため、様々な関係機関と連携して資料や情報、学習機会を提供します。また、市民ボランティアと連携した事業を展開し、事業の充実を図るとともに、住民相互の交流を促進します。

- ・市内の幼稚園、小中学校及び高等学校と連携し、児童生徒のおすすめ図書や作品を図書館で紹介、展示します。

令和3年度に初めて実施し好評だった中高生向け企画「イチオシ本のPOPを書こう！」を、令和4年度も引き続き実施します。(再掲)

- ・公民館、郷土博物館と事業の連携を図り、公民館事業への講師派遣や資料提供、郷土博物館と連携した資料展示などを行います。
- ☆おはなし会ボランティア中級編を開催し、素話のできるボランティアの増員とおはなし会活動の更なる充実を図ります。(再掲)
- ・様々な機会を通じて、図書館ボランティアの企画事業を推進するとともに、図書館で活動するサークルに成果発表の場を提供します。
- ・図書館が広く市民に利活用されるために、市及び図書館の広報紙やホームページ、SNS等様々な媒体を活用して、図書館の資料や読書普及事業等について積極的な情報発信を行います。

市民が様々な図書館資料の情報をホームページ・WebOPACから取得できるように「おすすめ図書」等のコンテンツについて定期的な更新や追加を行います。

- ※1 デイジー図書：デイジー(DAISY)はDigital Accessible Information Systemの略。視覚障がいなどにより活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格で、CD-R 1枚に約60時間の録音ができるほか、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することが出来る等の機能がある。音声データと目次・見出し情報等を記録した「音声デイジー」、文字や画像が含まれている「マルチメディアデイジー」などがあり、専用の再生機または再生用ソフトウェアをダウンロードしたパソコンで聞くことができる。
- ※2 多言語対応の電子絵本：袖ヶ浦市立図書館で提供するのは「多言語絵本の会RAINBOW」から寄贈された電子図書(CD-R)で、日本語と外国語による音声読み上げ、読んでいるところが画面上でハイライトされるなどデイジー図書と同様の機能があるが、専用の再生ソフトを必要とせずパソコンで視聴できる。

報告事項（１）令和３年度夏・秋のトショロ月間の実施結果について

夏のトショロ月間実績報告「図書館で夏をすずしく楽しもう！」

夏休み期間中に、子どもの知的好奇心を刺激する講座や親子で読書を楽しむ様々な催しを「夏のトショロ月間」と題して１ヶ月に集約して行っています。図書館に親しみ、将来の図書館を活用した生涯学習のための基礎をつくる場となるように、「つくってあそぼう！～バランスとんぼ～」や「みんなでたのしいぬりえ教室」、社会教育推進員が企画した「おりがみでおてがみをつくろう」など子ども向けの講座を開催しました。その他「図書室で宝さがし」、「お題の本 DE BINGO!!」など各館で様々な催しを行い、集会事業を行わなかった昨年度と比較すると、参加者は601名から949名と増加しました。また、すべての集会事業は事前予約制とし、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を十分に講じて実施しました。

7月16日（金）～8月17日（火） 参加者合計 949名
（令和２年度の参加者数合計 601名）

①参加企画〔会場〕全館・全図書室

回	日時	事業名	内容	参加人数
1	募集：7月16日（金）～ 8月17日（火） 掲示：～8月29日（日）	おしえて！き みのすきな本	パネルに、子どもにおす すめの本を書いてもらっ た用紙を掲示。	225名
2	7月1日（木） ～8月29日（日）	宿題おたすけ コーナー	夏休みの宿題に役立つ工 作、調べ学習、読書感想文 についての本を集めたコ ーナーを設置	

「おしえて！きみのすきな本」は、中央では「かいけつゾロリ」が、長浦では「ねずみくん」シリーズやヨシタケシンスケさんの著作の記入が多く見受けられました。全館で行える催しなので、次年度以降も継続して行っていきたいと思います。

「宿題おたすけコーナー」は、例年宿題に早めに取り組む子どもが多く、夏休み前から設置して欲しいとの要望に答え、7月1日からの設置としました。特に中央・長浦での利用が多かったようです。

②参加企画〔会場〕平川図書館

回	日時	事業名	内容	参加人数
1	7月16日（金） ～ 8月17日（火）	お題の本 DE BINGO!!	本の内容のビンゴゲーム。 借りた本の内容がビンゴの マスに書いてあったら、図 書の返却時にスタンプを押 す。（スタンプは1日3つま で）一列そろったら記念品 をプレゼント。	台紙配布数 171名 ポストカード 105枚 ピンバッチ 20個

ビンゴの台紙を4種類、ポストカードを5種類準備しました。子どもたちは積極的にビンゴの台紙を手に取り、いろいろな本を借りて参加してくれて大盛況となり、台紙もポス

トカードも追加補充して対応しました。保護者の方からは、「子どもがビンゴを機会にいろいろな本を読むようになって、励みになりました」というお言葉をいただきました。

③参加企画〔会場〕根形公民館図書室・平岡公民館図書室

回	日時	事業名	内容	参加人数
1	7月16日（金） ～ 8月17日（火）	図書室で「宝さがし」～えほんや読み物の中にかくれている宝物をさがそう！	カウンターに「今日の宝物」（例：うさぎ）を掲示し、図書室内でうさぎの出てくる本を3冊探してもらう。見つけたら記念品を贈呈。ひとり1日1回参加可能。	49名

昨年度好評だったことから根形・平岡公民館図書室を盛り上げるための企画として、今年度も実施しました。比較的小さい子どもの利用が多いことから「今日の宝物」は「でんしゃ」「パン」「ねずみ」「くだもの」など関連の絵本が多く探しやすいものにしました。親子で楽しんで探す様子が見受けられ、根形公民館図書室20名、平岡公民館図書室29名と両館ともに好評でした。

①集会事業〔会場〕中央図書館

回	日時	事業名	講師等	参加人数
1	7月27日（火） 10：30～11：00 11：15～11：45	ちょっぴりこわいおはなし会	ボランティア、職員	（2回） 25名
2	8月3日（火） 10：30～11：00 ※12月24日に延期	袖高とコラボ！ 親子いっしょのおはなし会	ボランティア、職員	
3	8月10日（火） 10：30～11：00	えほんのひろば	職員	（1回） 8名
4	8月15日（日） 13：15～13：55	みんなでたのしいぬりえ教室	ボランティア、職員	（2回） 36名

「ちょっぴりこわいおはなし会」は、子どもたちはいつもと一味違うちょっぴりこわいおはなしや絵本を緊張気味に味わい、終わると晴れ晴れとした表情を見せ、満足した様子でした。

「袖高とコラボ！親子いっしょのおはなし会」は、袖ヶ浦高校10名が読み聞かせを練習していましたが、感染状況が急激に悪化したことから、高校生や参加者の安全を考慮し12月24日に延期しました。

「えほんのひろば」は、コロナ禍後はじめて3歳以上を対象とした読み聞かせでしたが、立ち歩く子はおらず、終始マスクを着用し、夏らしい絵本や手遊びを親子で楽しみました。

「みんなでたのしいぬりえ教室」は、親子でぬりえを楽しむ良い時間になったと思います。講師がさらに上手に塗るためのコツや子どもとの家でのぬりえの楽しみ方などアドバイスをしていました。

②集会事業 [会場] 長浦おかのうえ図書館

回	日時	事業名	講師等	参加人数
1	7月29日(木) 13:30～14:15 14:35～15:10	おりがみでおてがみをつくろう	社会教育推進員	(2回) 35名
2	8月13日(金) 10:30～11:00 11:15～11:45	ちょっぴりこわいおはなし会	職員	(2回) 15名
3	8月12日(木) 11:00～11:20	子ども映画会「ムーミンパペットアニメーションシリーズ 夏まつり・島のおばけ」	職員 ボランティア	32名

「おりがみでおてがみをつくろう」は、手紙をテーマにした絵本「きょうはなんのひ」の読み聞かせのあと、おりがみてがみ「シャツ」「こびと」を作成しました。読み聞かせでは子どもも保護者も目を輝かせて絵本を楽しみ、そのあとのおりがみてがみ制作では一生懸命手紙を書いたり折ったりする姿が見られました。

「ちょっぴりこわいおはなし会」は、1回目が定員を上回ったため時間をおいて2回行いました。各回ともちょっぴりこわいおはなしと絵本に少し緊張した面持ちを見せつつ、わくわくした表情で親子で参加している様子が見受けられました。

「子ども映画会」は、長浦おかのうえ図書館で、小さい子どもたちからも人気があり、親子で楽しめるムーミンパペットアニメーションシリーズから夏に因んだ2作品を上映しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から短めの上映時間でしたが、最後まで楽しんでもらえました。

③集会事業 [会場] 平川図書館

回	日時	事業名	講師等	参加人数
1	7月18日(日) 13:30～13:55 14:15～14:40	つくってあそぼう！ ～バランスとんぼ～	ボランティア	(2回) 19名

「つくってあそぼう～バランスとんぼ～」は工作ボランティアの井上勝さんを講師に迎え、あらかじめ切っておいた厚手の紙を参加者が思い思いの色で塗り糊で貼り付けて、指に吸い付くようにとまる様子を楽しみました。早めにつくり終わった参加者は、講師が用意した「バランスくじら」などの工作にも挑戦しました。

④定例おはなし会・図書館でブックスタート

〔会場〕中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

会場	期日	事業名	対象	講師等	参加人数
中央図書館	7月20日(火) 8月17日(火) 10:30～11:30 ※8月は中止	図書館でブックスタート	市内在住の 1歳未満の 子どもと保 護者	職員 ボランティア	(1回) 15名
	7月24日(土) 8月15日(日) 14:00～14:30 14:45～15:15	定例おはなし会	4歳から 小学6年生	ボランティア	(4回) 52名
長浦おかのうえ図書館	7月31日(土) 8月8日(日) 14:00～14:30	定例おはなし会	4歳から 小学6年生	ボランティア	(2回) 19名
平川図書館	7月18日(日) 14:00～14:30 14:45～15:15	定例おはなし会	4歳から 小学6年生	ボランティア	(2回) 19名
合 計					(9回) 105名

⑤展示等 〔会場〕中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

回	会場	日時	事業名	講師等	点数
1	中央図書館 児童室	7月16日(金) ～ 8月29日(日)	昭和中学校図書委員会 おすすめ図書展示	昭和中学校 図書委員	30点 (7名)
2	中央図書館 児童室	7月16日(金) ～ 8月29日(日)	展示 わたしだけの 「けむりのきしゃ」	昭和小学校 1年生	109点 (109名)
3	長浦おかのうえ図書館 市民ギャラリー	7月17日(土) ～31日(土)	蔵波中学校美術部の作品展示	蔵波中学校 美術部	38点 (29名)
4	平川図書館	7月16日(金) ～ 8月29日(日)	中川幼稚園児作品展示	中川幼稚園 園児 年長児・年少児	122点 (84名)

「昭和中学校図書委員会おすすめ図書展示」では、展示した図書は期間中ずっと貸し出されているほど人気でした。児童室も飾りつけにより華やかになりました。

中央図書館の「昭和小学校展示 わたしだけの『けむりのきしゃ』」は、昭和小学校から6月末に提案があり夏のトショロ月間の一環として実施することになりました。1年生の国語の教科書に掲載されている「けむりのきしゃ」という作品を書写し色付けした作品を、クラスごとに10日間ずつ展示しました。展示を見るために来館する親子や祖父母が多く見られ、図書館へ足を運んでもらうよいきっかけとなりました。

長浦おかのうえ図書館の「蔵波中学校美術部員展示」は、会場が市民ギャラリーだったため、広く来館者の目に触れることができました。

平川図書館の「中川幼稚園園児作品展示」は、図書館からの依頼により初めて実施しました。年長児は「虹色のさかな」を、年少児は「ヨーヨー」や「すいか」を工夫して作り、館内が夏らしい雰囲気となりました。作品を見に来館する親子の姿が多くみられ、平川図書館を利用する契機を創出できました。

秋のトショロ月間「読書の秋！そうだ、図書館へ行こう！」

秋の読書週間（10月27日から11月9日）を含む1か月間にわたって市内の図書館・公民館図書室で開催する「秋のトショロ月間」は、平成26年度より開始した事業です。どの事業も、昨年に引き続き、参加型の事業は定員を減らし予約制にするなど、新型コロナウイルス感染拡大予防対策を講じて実施しました。

大人向けには、文芸作品と生活課題を取り上げる2種類の講座を開催したほか、おすすめの本を紹介する企画や趣向を凝らした映画会など、読書や文化に触れるイベントを実施しました。

子ども向けにも、「本のおみくじ」や「青空かみしばい劇場」など読書に興味をもってもらえるイベントを実施しました。

その他にも市内小中高等学校と連携した作品展示や、図書館で活動するサークルの発表等を行い、市民と図書館をつなげる事業となっています。

10月23日（土）～11月21日（日）参加人数合計 1,054名

展示点数 766点 展示等した本の貸出数 379冊

（令和2年度の参加人数合計 1,652名

展示点数 690点 展示した本の貸出冊数 505冊）

①参加企画〔会場〕全館・全図書室

日時	事業名	内容
10月23日（土）～ 11月21日（日）	秋の読書マラソン大会	目標値の30冊を目指し、本を借りてもらう。期間内に借りた冊数に応じて、全体及び年代別の順位が確認できる。

電算上で目標値を10冊、20冊、30冊と設定し、期間中に借りた資料の冊数とその目標値に達するとwebOPACやOPACのマイページに銅メダル、銀メダル、金メダルと表示され、登録者全体での順位や年代別の順位が確認できるというイベントです。

今回初めて実施した企画で、図書館では全体の参加者数やメダル獲得者数、高順位者等を把握することができないため、参加者に特典を出すことなどは行わなかったものの、カウンターでは「読書マラソンのためにたくさん借りよう」や「励みになる」といった声が聞かれました。

②参加企画〔会場〕平川図書館

日時	事業名	内容	参加人数
10月23日（土）～ 11月21日（日）	本のおみくじ	ガチャガチャをまわしておみくじを引き、運勢やおすすめの絵本を占う。	84名

初めての試みとして、3歳からの子どもの対象に実施しました。運勢とそれに関連するおすすめ絵本を表紙画像入りで紹介したカプセルを用意し、平川図書館の入口に設置した手製のガチャガチャで、来館した子どもに引いてもらいました。

字が読めない子どもからも、おすすめの絵本の表紙画像を見て「この本を借りたい」という反応が得られたほか、「おみくじですすすめられたのをきっかけに、ふだん自分で選ばないような絵本を読めた」との声が聞かれるなど好評で、実施期間中におすすめ絵本は99冊貸出されました。

③参加企画〔会場〕根形公民館図書室・平岡公民館図書室

日時	事業名	内容	参加人数
10月23日（土）～ 11月21日（日）	どんなごはんがすきかな？投票してみよう！	食べ物のことを取り上げた絵本を展示し、その中から、すきな絵本に投票してもらう。	87名

公民館図書室の企画として、図書室ごとに個性のある投票ボードを作成し、大人から子どもまで幅広い年齢層の方にシールを貼って投票してもらいました。「シールを貼る」ということ自体が楽しいようで、様々な食べ物の絵本を紹介することができました。

④集会事業 〔会場〕中央図書館

回	日時	事業名	講師等	参加者数
1	11月5日（金） 14：00～15：30 11月12日（金） 14：00～15：30	文芸講座 「宮沢賢治文学を愉しむ - 自筆原稿にふれながら - 」	木更津工業高等専門学校人文学系講師 田嶋彩香	（2回） 39名
2	10月23日（土） ①13：30～13：55 ②14：50～15：15	中庭イベント 「青空かみしばい劇場」	社会教育推進員	（2回） 34名
3	10月23日（土） ①14：00～14：30 ②15：20～15：50	中庭イベント 「カレンダーを使って封筒づくり～SDG s エコについて考えよう～」	社会教育推進員	（2回） 34名
4	10月23日（土） 13：30～15：50	中庭イベント 「本のおみくじ」	社会教育推進員	34名
5	10月28日（木） 14：00～15：30	映画鑑賞会 “現代バレエ モーリス・ベジャールのボレロ”	社会教育推進員	20名
合 計				（8回）161名

「文芸講座」は「宮沢賢治文学を愉しむ-自筆原稿にふれながら」をテーマに全5回（秋のトショロ月間期間中には2回）の連続講座として開催しました。定員を20名として、全5回で延べ94名の参加があり、アンケートでも大変好評でした。

「中庭イベント」は社会教育推進員による企画で、紙芝居やパネルシアター、手遊びなどを行う「青空かみしばい劇場」と、使用済みカレンダーを使って封筒を作る「カレンダーを使って封筒づくり～SDG s エコについて考えよう～」等を行いました。封筒づくりは型を持ち帰って「家でも作る！」という声もあるなど盛況で、本のおみくじのおすすめ絵本は54冊の貸出がありました。

「映画鑑賞会“現代バレエ モーリス・ベジャールのボレロ”」は、バレエ作品の「モーリス・ベジャールと二十世紀バレエ団の芸術」を上映しました。当日は社会教育推進員による前説を行い、参加者からは「肉体の美しさにほれぼれしました」などの声があり好評でした。

⑤集会事業 [会場] 長浦おかのうえ図書館

回	日時	事業名	講師等	参加者数
1	11月11日(木) 10:00～12:00	暮らしに役立つ生活講座 「人生100年時代のマネープラン」	千葉県金融広報委員会 金融広報アドバイザー 近藤喜隆	22名
2	11月3日(水・祝) 13:30～14:30	大人のためのお話し会	グループサークル むかしむかしの会	40名
合 計				(2回) 62名

「暮らしに役立つ生活講座」は、千葉県金融広報委員会から金融広報アドバイザーを講師として招き、「人生100年時代のマネープラン」と題して、老後のお金について、キャッシュレス社会やiDeCoなどの投資の話も含めた講義を行いました。身近で関心度の高いテーマであり、講師のわかりやすい説明も好評でした。

図書館のグループサークル「むかしむかしの会」による「大人のためのお話し会」は、よいムードの中で進行し、参加者にも“おはなし”を聞きなれてきた様子が見られました。毎年恒例のイベントとして定着し、大人にもおはなしに関心を持ってもらえる良い機会になりました。

⑥展示・貸出 [会場] 長浦おかのうえ図書館

日時	事業名	内容	展示数・貸出数
10月23日(土)～ 11月21日(日)	秋の夜長におすすめの怖い本	幽霊画の画集や幽霊の出る古城の写真集など司書おすすめ の怖い本の展示と貸出	315冊展示 うち139冊貸出

カウンター前に設置したことで、多くの人の目に触れることができました。貸出数は昨年度にくらべ減少しましたが、今回は中央図書館や収蔵庫の資料からも展示し、利用者に新しい本との出会いを提供することができました。

⑦展示・貸出 [会場] 平川図書館・根形公民館図書室・平岡公民館図書室

回	日時	事業名	内容	貸出数
1	10月23日(土)～ 11月21日(日)	《大人向け》 本のおたのしみ袋	テーマごとに関連図書3冊を選んで紙袋に入れて、中身を見ずに借りてもらう。 平川40袋、根形20袋・平岡20袋用意	平川40袋貸出 根形20袋貸出 平岡20袋貸出 計80袋貸出 (240冊貸出)

秋のトショロ月間終了時にはすべての袋が貸し出され、盛況でした。おたのしみ袋の中の本は貸出館以外に所蔵されている本から選定しているため、ふだん利用している館以外の本が入っているので毎年楽しみにしているという声もありました。

⑧展示 【会場】 中央図書館

回	日時	事業名	内容	展示数
1	10月1日(金)～ 11月28日(日)	図書館登録サ ークルの作品 展示	10月1日(金)～10月20日(水) やまゆり俳句会展示	10点 (10名)
			10月21日(木)～11月9日(火) 宇麻呂多短歌会展示	10点 (5名)
			11月10日(水)～11月28日(日) 短歌そでがうら展示	18点 (9名)
2	10月26日(火) ～11月21日 (日)	奈良輪小 3年生 「生き物ブッ ク」展示	奈良輪小学校3年生が図鑑の使い 方を調べて「生き物ブック」を作 成しクラスごとにファイルにまと めて全員分を展示	105点 (105名)
3	10月23日(土) ～ 11月21日(日)	奈良輪小 4年生 「調べて日本 一周」展示	奈良輪小学校4年生が、学校図書 館を活用した総合の授業で各都道 府県について調べて1人1点ずつ リーフレットを作成し展示	24点 (24名)

「図書館登録サークルの作品展示」には「やまゆり俳句会」、「短歌そでがうら」、「宇麻呂多短歌会」の3サークルが参加しました。どのサークルの作品も素晴らしく、たくさんの利用者が足を止めていました。図書館で所蔵している俳句や短歌の本もあわせて展示し、貸出の増につながりました。

奈良輪小学校3年生、4年生による成果発表の展示は、じっくりと見入っている利用者の姿が見られ、児童や保護者が図書館に来館するきっかけづくりになりました。

⑨展示 【会場】 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館・根形公民館図書室

回	日時	事業名	内容	展示数
1	【募集期間】 9月15日(水)～ 11月21日(日) 【展示期間】 10月23日(土)～ 12月15日(水)	イチオシ本の P O P を書こ う！	中学生、高校生が作成した「イチ オシ本のP O P」展示	284点 (284名)

中学生・高校生を対象に、おすすめ本のPOPを書いて図書館に提出するとオリジナルトシヨロポストカードがもらえるというイベントを実施しました。初めての企画で、個人での参加は19名に留まりましたが、長浦中学校(91名)、根形中学校(36名)、平川中学校(12名)、袖ヶ浦高等学校(126名)から多数の参加があり、大変華やかな展示になりました。

参加者からは「POPがハガキサイズなので取り組みやすく、やりがいがあった」、「8種類あるトシヨロポストカードを楽しく選んだ」などの声がありました。中高生の読書や図書館来館の契機を創出し、同世代が読む本を知ることによって読みたい本の幅が広がる有意義なイベントとなりました。

⑩映画会 [会場] 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

会場	上映日	上映作品	参加人数
中央図書館	11月7日(日) ①13:25～13:55 ②14:10～14:40	子ども映画会 「どろんこハリーほか2話」	(2回) 36名
中央図書館	11月18日(木) 10:00～11:25	秋の名画鑑賞会“明かりが消えて映画が はじまる”「髪結いの亭主」	23名
長浦おかの うえ図書館	10月27日(水) 10:00～11:50	秋の名画鑑賞会“明かりが消えて映画が はじまる”「続・深夜食堂」	47名
長浦おかの うえ図書館	11月17日(水) 10:00～11:55	秋の名画鑑賞会“明かりが消えて映画が はじまる”「奇蹟の輝き」	27名
平川図書館	10月28日(木) 10:00～11:55	秋の名画鑑賞会“明かりが消えて映画が はじまる”「長崎ぶらぶら節」	17名
合 計			(6回) 150名

「子ども映画会」は、絵本でも人気がある「どろんこハリー」を上映しました。おはなし会と併せて開催した相乗効果もあり、盛況でした。

「名画鑑賞会」は、『明かりが消えて映画が始まる』と題して、照明が落ちて映画が始まる高揚感を味わいながら、様々なジャンルの作品を上映しました。映画会ボランティアがおすすめする上映作品の見どころやおすすめポイントを記したチラシを配布し、ボランティアが描いた4作品を散りばめたイラストも好評でした。

⑪おはなし会 [会場] 中央図書館・長浦おかのうえ図書館・平川図書館

会場	期日	対象	講師等	参加人数
中央図書館	11月7日（日）、 ①14：00～14：30 ②14：45～15：15	4歳から 小学6年生	職員、ボランティア	（2回） 29名
長浦おかのう え図書館	10月24日（日） 11月21日（日） 14：00～14：30		職員、ボランティア	（2回） 19名
平川図書館	11月13日（土） ①14：00～14：30 ②14：45～15：15		職員、ボランティア	（2回） 18名
合			計	（4回）66名

中央図書館はおはなし会に併せて子ども映画会も企画し大変盛況でした。長浦おかのうえ図書館のおはなし会はおはなし会ボランティア養成講座の受講生の見学があり、平川図書館は平川公民館展示会の機会に合わせたため、それぞれ多くの参加がありました。いずれのおはなし会も手遊びなども織り交ぜ、感染症対策に留意しながらも楽しい会となりました。語り手に「また来てね」とお願いする子どもの姿が印象的でした。

⑫図書館でブックスタート [会場] 中央図書館

期日	対象	講師等	参加人数
11月16日(火) 10:30~11:30	市内在住の1歳未満の 子どもと保護者	職員、ボランティア	(1回) 7名

「図書館でブックスタート」は、ボランティアによる絵本の読み聞かせとブックスタートパックをプレゼントし、ゆったりと楽しいひと時を過ごしてもらえたようでした。

報告事項（２）令和３年度本・雑誌リユース・デーの実施結果について

１ 提供冊数

袖ヶ浦市立図書館資料除籍基準に則り、重複して所蔵している本や内容の改訂等により保存価値がなくなったため除籍した資料 約 21,000 冊

図書 約 19,000 冊

・一般書 約 14,000 冊

内訳：令和元～２年度除籍 約 14,000 冊（複本があるもの、旅行ガイドブックなど改訂版があるもの、医療書など内容が古くなり実用に耐えないもの）

・児童書 約 5,000 冊

内訳：令和元～２年度除籍 約 1,100 冊

（うち経年劣化による汚破損での除籍約 1,000 冊）

：前回（令和元年度）からの繰り越し 約 1,400 冊

：不用になった学校用団体貸出セット（平成８年度除籍児童書）

約 2,500 冊

・雑誌 約 2,000 冊

＊その他、図書館で受け入れをしない寄贈資料

（参考）令和元年度提供冊数 約 12,500 冊

（一般書 約 7,000 冊、児童書 約 3,500 冊、雑誌 約 2,000 冊）

２ 場所

長浦おかのうえ図書館 視聴覚室・大会議室・小会議室

３ 実績

（１）根形公民館サークル等発表会 場所：根形公民館 玄関ポーチ

11月6日（土）、7日（日）開催の「根形公民館サークル等発表会」において、11月7日に「本のリサイクル市」という名称で図書館の除籍資料を配布したいと根形公民館から申出があり、「本・雑誌リユース・デー」用の除籍資料を一部提供した。

なお、「根形公民館サークル等発表会」は新型コロナウイルス感染予防対策として、入場は市民のみで開催した。

提供冊数

雑誌 約 120 冊

児童書（読み物） 約 120 冊

児童書（絵本） 約 300 冊

計 約 500 冊

(2) 事前提供

12月2日(木)～12月3日(金) 場所 長浦おかのうえ図書館

市内の保育所、幼稚園、小中学校、子育て支援拠点、学童保育所、養護施設、高齢者施設等92団体に呼びかけ、44団体が参加し、2,060冊を提供した。

※内訳<一般書：561冊、児童書：1,105冊、雑誌：327冊、寄贈：67冊>

(参考) 令和元年度事前提供

76団体に呼びかけ、34団体が参加し、1,764冊を提供

内訳<一般書：324冊、児童書：952冊、雑誌：345冊、寄贈：148冊>

(3) 本・雑誌リユース・デー

例年、1日のみの開催で行っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策として市内施設の部屋の上限人数が設定されていること、提供冊数が前回より多いことから、開催期間を3日間とし、30分ごとの入替制(参加25分、入替5分)で実施した。12月5日(日)は完全予約制、12月7日(火)・8日(水)は整理券制とした。

12月5日(日)開催分は、12月3日(金)までにすべて予約が埋まり、当日は243名の参加があった。現役世代、親子連れの姿が多くみられた。

12月7日(火)は、当日朝こそ行列が見られたが、2枠目からは待つこともなく入場できるようになり、72名の参加があった。12月8日(水)は、朝から1日雨であったが、各時間訪れる人がおり、続けて次の時間に入り、じっくり本を探す姿が見られた。50名の参加があった。7日、8日両日とも小さな子どもを連れた女性の参加が見られた。

日時	12月5日(日)	午前9時30分～午後4時	定員：11枠	275人
	12月7日(火)	午前10時～午後3時	定員：8枠	200人
	12月8日(水)	午前10時～午後3時	定員：8枠	200人

対象 袖ヶ浦市内に在住、在勤、在学の方

図書は1人30冊まで、雑誌は無制限(7日からはすべて無制限)

※新型コロナウイルス対策として、今年度は雑誌の付録の配布は行わなかった

参加者数	提供冊数	募金額
365名	約6,500冊	46,133円

※募金46,133円は、地域福祉推進に繋げるため、社会福祉法人袖ヶ浦市社会福祉協議会へ寄附。

※残った児童書約600冊と、一般書9分類(小説など)約3,200冊は、次回の「本・雑誌リユース・デー」で再利用するため、保管した。

※最終的に残った約8,200冊は、市内学校等の廃品回収で処分予定。

(参考) 令和元年度実績(1日開催)

参 加 者 数	提 供 冊 数	募 金 額
4 5 1 名	約 4, 4 8 0 冊	4 4, 7 4 3 円

募金 4 4, 7 4 3 円は、地域福祉推進に繋げるため、社会福祉法人袖ヶ浦市社会福祉協議会へ寄附。

最終的に残った約 4, 8 0 0 冊は、市内学校(蔵波中学校)の廃品回収で引き取られた。

4 総括

今回は、初の試みとして「根形公民館サークル等発表会」(新型コロナウイルス対策により根形公民館まつりから内容を精査し名称変更して開催)へ除籍資料の一部を提供し、有効活用を図った。

事前提供を呼び掛けた市内の施設は、前回の開催以降に保育所、学童保育所、老人ホームなどが市内に増設されたため、前回の 7 6 団体から 9 2 団体に増加した。参加団体は、4 4 団体(前回は 3 4 団体)である。提供冊数は前回の 1, 7 6 4 冊から 2, 0 6 0 冊と増加した。

市民向けに開催した「本・雑誌リユース・デー」は、1 2 月 5 日(日)を事前予約制で行った。申込順に入場時間を指定し、限りある参加枠を無駄にすることなく、すべての時間の予約を埋めることができた。予約受付期間中は、1 枠埋まるごとにツイッターで申し込み状況をツイートし、申込喚起を図った。3 0 分ごとの入替は、会場入口、出口に電波時計を置き、スタッフが 5 分前に声掛けをして混乱なく行えた。

整理券制で実施した 1 2 月 7 日(火)、8 日(水)は、平日だったため、1 日の定員 2 0 0 人の 4 分の 1 程度の参加となったが、小さい子ども連れや高齢者など、混雑を避けて参加したい層の需要があった。

しかし、例年会場全体で 7 0 ~ 8 0 人入場していたところを今回は 2 5 人としたため、3 日間の開催としたにもかかわらず、参加人数は前回の 4 5 1 人から 3 6 5 人と減少した。なお、提供冊数は、前回 1 5 冊から 3 0 冊(2 日目以降無制限)と増やしたため約 4, 4 8 0 冊から約 6, 5 0 0 冊に増加した。

新型コロナウイルス感染拡大対策として、マスクの着用、出入口の消毒薬設置、入口での検温、参加者名簿の作成、会場の換気、定期的に視聴覚室、共用部分の消毒を行った。

総合教育センターの長浦おかのうえ図書館への移転について

前回の図書館協議会で報告いたしましたとおり、令和4年4月から、総合教育センターが長浦おかのうえ図書館の3階に移転します。

これに伴い、令和4年3月14日（月）から3階の事務室、編集室、大会議室は総合教育センターが使用することになります。

令和3年12月議会で関連する条例の改正が可決され、広報そでがうら1月号にも、移転のお知らせを掲載しました。

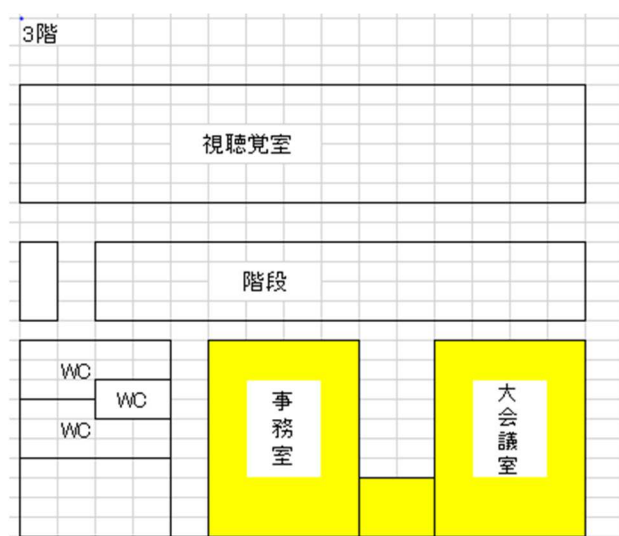
総合教育センターは教育に資するための基本的事項及び専門的事項の調査研究に関すること、教育関係職員の研修に関すること等を行います。開庁日は月曜日から金曜日の午前8時30分から午後5時15分までとなります。

これに伴い、長浦おかのうえ図書館の事務室は2階作業室に移転いたします。

また、大会議室は総合教育センターの一部となるため、一般への貸出はできなくなります。図書館の主催事業は、視聴覚室や中央図書館又は他の公民館の会議室を使用して対応します。

今まで大会議室を利用していた登録サークル等については中央図書館又は他の公民館の会議室を利用していただくことになります。

長浦おかのうえ図書館を現在利用しているサークル等には個別に説明するほか、別紙のチラシを公民館等に配布し、周知してまいります。



※着色部分：総合教育センター使用部分

総合教育センターが 長浦おかの上図書館に移転します

令和4年度から総合教育センターが長浦おかの上図書館の3階に移転します。

これに伴い、準備期間を含め、令和4年3月14日(月)から長浦おかの上図書館3階大会議室の貸出ができなくなります。

ご不便をお掛けして誠に申し訳ありませんが、他の公民館等をご利用くださいますようお願いいたします。

視聴覚室と市民ギャラリーは
今までどおりご利用いただけます。



図書館イメージキャラクター
トショロ

【問合わせ】長浦おかの上図書館 電話 0438-64-1046